

飯山の遺跡

昭和60年度市内遺跡詳細分布調査報告書

1986.8

飯山市教育委員会

飯山市埋蔵文化財調査報告 第14集

(保護啓発資料)

飯山の遺跡

—市内遺跡詳細分布調査報告—

1986・3

飯山市教育委員会

序 文

飯山市は長野県の最北端に位置し全国でも有数の豪雪地として知られており、古代の貴重な遺跡も數多く存在するといわれます。

昭和30年後半に始まる高度経済成長に伴う土地開発の波は奥信濃の地にも押し寄せ住宅団地、工場団地、圃場整備、道路の新設等がひんぱんに行われ、これらの遺跡が破壊されるという事態が起きてきました。

そこで教育委員会では埋蔵文化財を守るために、遺跡の所在地とその種類及び範囲を把握する事が必要であると考え、昭和50年から2年余を費やし当時飯山北高教諭であった高橋桂先生を中心に関係者の協力を得て市内の遺跡分布調査を行ない報告書を発刊しました。

しかしながら太田、岡山地区の山間部等について充分な調査を行ない得ぬまま発刊した経過があった事から、近年岡山上段開発に伴う大規模農地造成が実施されるに伴い更に詳細な遺跡範囲の明確化が急務となりましたので本年度国・県の補助金を得て詳細分布調査を実施しました。

調査は5月の雪消えと同時に開始され、市内くまなく踏査した結果新たな遺跡も発見され、また今まで不明確であった部分も解明する事ができました。

この報告が今後、飯山市の埋蔵文化財保護の為に大事な役割を果たすとともに、考古学界におきましても貢献する事が大きいものと深く信ずるものであります。

最後に本書作成にあたり尽力、且指導された高橋桂先生並びにご協力いただいた多くの関係者の方々に深甚なる敬意と感謝の意を表し序といたします。

昭和61年3月

飯山市教育委員会
教育長 浦野 昌夫

例　　言

- 1 本書は、昭和60年度事業として実施した飯山市遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 本調査は国庫補助金事業で行われた。
- 3 調査は飯山市教育委員会が事業主体となり、調査会を組織して実施した。調査会役員名簿は以下のとおりである。

顧問	小野沢 静夫	(飯山市長)
会長	浦野 昌夫	(飯山市教育長)
副会長	武田 作之助	(飯山市教育委員会教育次長)
理事	佐藤 政男	(飯山市文化財専門委員会・委員長)
タ	弓削 春穂	(タ副委員長)
タ	上原 幸大	(タ委員)
タ	高橋 桂	(タ)
タ	藤沢 正平	(タ)
タ	吉沢 菊之進	(タ)
タ	山崎 盈	(タ)
事務局	小川 恵一	(飯山市教育委員会社会教育係長)
	望月 静雄	(タ社会教育係)

指導 高橋 桂 (飯山南高等学校教諭)
調査員 望月静雄・廣瀬昭弘・青木真澄・清水信子
協力者 森山茂夫(小境)・久保田貢夫(温井)・藤巻徳次(下境)・齊藤剛(下境)・松沢芳宏(大久保)・
田村親城(頃)・飯山市総務課秘書広報係(表紙写真)・同建設課(航空写真)

- 4 本書の編集は高橋桂先生指導の下に望月静雄が行い、分布図・地名表・文献目録の作成にあたっては清水信子の協力を得た。

凡　　例

- 1 本書に掲載した分布図・地名表は「遠跡分布調査報告1」飯山北高等学校地歴部OB会刊—昭和52年—を基礎的文献として、今回の調査結果を加えて新に作成したものである。

2 分布図について

- 1) 使用した地図は、飯山市の調整した25,000分の1である。
- 2) 飯山市を任意に14分割し、分割図に示した。
- 3) 分布図に示した遠跡は、先土器(旧石器)時代～平安時代までの集落址・祭祀址・墓址等の包蔵地、古墳および中世城館址である。(右図参照)



3 地名表について

- 1) 遺跡番号は通し番号の他、「飯山市遺跡分布調査報告Ⅰ」で使用したブロック番号を付した。
- 2) 時期は、先土器（旧石器）時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・中世とし、それぞれ（先）・（縄）・（弥）・（古）・（奈）・（平）・（中）と記した。
- 3) 地番は代表地番である。
- 4) 文献の項の番号は、末尾の文献目録の番号である。

なお、本書は昭和60年度調査において確認された遺跡であり、今後さらに遺跡が増加されるであろうし、また遺跡範囲も変更される場合があることを御了解願いたい。

目 次

序 文

例 言

凡 例

第1編	飯山の遺跡概観	（高 橋 桂）	1
第2編	遺跡分布図		15
第3編	遺跡地名表		31
第4編	文献目録		53

第 1 編

飯山の遺跡概観



遺跡地図No. 3 付近

須多峰遺跡は、縄文中期初頭および弥生・古墳時代の大遺跡である。県下初の方形周溝墓もこの遺跡より検出された。(写真中央やや左下の団地)。

はじめに

長野県の北端に位置する飯山市は、全国的にも有数の豪雪地として知られている。11月中旬には初雪が降り、12月中旬には積雪となり融雪は4月である。この間人々は雪との壮絶な戦いを余儀なくされるのである。このような地域にも先史時代以来生き生きとした人間の活動が営まれつづけてきたのである。

今回、飯山市教育委員会は市内の埋蔵文化財の分布調査を実施し、その保護と活用を図る目的で分布図を作成することとなった。市内の埋蔵文化財分布調査は昭和40年代にすでに飯山北高地歴部OB会によって実施され、その結果は分布図として完成をみたのである。しかしながらこの調査では不備の点がいくつかあり、更にその後の調査によって幾多の新発見の遺跡が追加された。豪雪地帯という地理的条件故に開発のテンポは他地域に比較して遅れているものの開発は着実に進展しており、遺跡の破壊もそれと軌を一つにしている。更に人口流出抑止策として各種工場誘致の計画や北陸新幹線問題、関越自動車道上越連絡線に伴う引込線の問題等いくつかの開発計画が予定されている。従って、より詳細で正確な埋蔵文化財の分布地図を作成する必要が生じ、今回の分布図作成となったのである。

分布調査報告書作成の目的、動機についてはすでに触れている通りでここでは省略し、市内に存在する埋蔵文化財分布の特徴について触れてみよう。

I. 先土器時代

故神田五六氏が安田神社（正式には木島神社）境内で採集したマイクロコアが飯山地方の先土器文化発明の端緒であることはいうまでもない。その後、麻生優、樋口昇一氏によって温井オリハンザ出土のマイクロリスが確認され、ついで大倉崎瀬付でナイフ形石器が発見された。

昭和40年以降、飯山北高地歴部の調査を通して常盤上野、瑞穂日焼、同千刈等いくつかの該期遺跡が発見された。これら先土器遺跡の分布は、①千曲川辺り、②洪積台地上、③長峰丘陵上の3つに大きく分けることができる。特に千曲川に接する地点に大規模な遺跡が存在している。このことは飯山地方における先土器文化の生活内容を考える上に重要なであろう。かつて麻生優氏は大倉崎遺跡について「千曲川に接する位置にあることは、注意すべきではないか」と信濃史料第1巻上で示唆に富んだ指摘をしている。これら先土器遺跡の存在する場所は工場誘致やバイパスの敷設等が計画されているので今後、充分に注意する必要がある。

II. 繩文時代

①草創期の遺跡には小佐原遺跡、針湖池周辺があげられる。前者は小佐原台地の南西端にあり、永峯光一氏によってかつて調査された。針湖池は長峰丘陵の丘頂部に存在する。表裏縄文土器を主体とする。

②早期は押型文土器によって代表されるが、押型文土器は十三丘近辺、温井、北竜湖周辺が代表的なものである。1、2点の押型文を出す遺跡はいくつか存在する。押型文土器を出土する遺跡は規模も小さく比較的高所にあり、漂泊的要素が濃厚ににじみでている。

③縄文前期に入ると有尾、大倉崎、田草川尻の各遺跡が代表としてあげられよう。これらはいずれも千曲川に接する場所にあって規模の大きい遺跡である。中でも有尾遺跡は縄文前期の標準遺跡として知られている。山間部の遺跡としては西大滝上の原、蓮茂右門新田、飯山十三丘等をあげることができる。

④中期、須多峯、深沢、上の原の各遺跡がこの地方における該期の代表的遺跡である。北陸地方の文化と密接

遺 跡 年 表

年代	時代	生業	遺物	特色	飯山市の遺跡	県内
約30,000年前	先土器(旧石器)時代	狩獵		局部磨製石斧の出現 寒冷な気候 ナイフ形石器の発達 尖頭器の出現 細石器の発達	大塚(常盤・大塚) 太子林(瑞穂・閑沢) 日焼(・・・柄尾) 開沢(・・・開沢) 山岸(木島・山岸) 千刈(瑞穂・戸那子)	石子原(飯山市) 向尾根(原村) 茶臼山(诹訪市) 小坂(栗村) 男女倉(和田村) 矢出川(南牧村) 横倉(栄村)
20,000	縄文時代	草創期	石	土器製作の開始	小佐原(柳原・小佐原) 針瀬(常盤・長峰)	石小屋洞穴(須坂市) 三枚原(木島平村)
10,000	文	早期	縄		北竜湖(瑞穂・北竜湖) 鳴沢頭(岡山・桑名川・下境)	丸山(牟礼村)
	時	前期	文	温謾な気候 大規模な村ができるはじめる	有尾(飯山・有尾) 大倉崎(常盤・大倉崎)	南大原(豈田村) 上原(大町市) 阿久(原村)
	代	中期	土		須多峯(飯山・市ノ口) 深沢(秋津・深沢) 中山(太田・大深) 上の原(瑞穂・柄尾)	井戸尻(富士見町) 尖石(茅野市)
3,000		後期	器		宮中(瑞穂・宮中) 東原(岡山・桑名川)	伊勢宮(山ノ内町) 宮(中条村)
		晩期			顔戸南木ノ下(外様・顔戸) 山ノ神(秋津・山ノ神)	佐野(山ノ内町) 水(小諸市)
2,000	弥生時代	中期	水	水稻農耕の開始	押出(太田・小境) 照丘(常盤・照丘) 鍛治田(柳原・山口)	新諏訪町(長野市) 栗林(中野市) 百瀬(松本市)
		後期	金	方形周溝墓がつくられる	田草川尻(秋津・田草川尻) 下林(外様・法寺) 須多峯(飯山・市ノ口)	吉田(長野市) 箱清水(長野市)
	古墳時代	前期	土	古墳が造り始められる	柳町(外様・尾崎) 須多峯(飯山・市ノ口)	弘法山古墳(松本市)
		中期	鋤	須恵器の生産	中町郷谷(秋津・中町)	森狩草塚古墳 (更城市)
		後期	農	カマドの普及	田草川尻(・・・田草川尻) 有尾(飯山・有尾)	御塚1号古墳(須坂市) 平出(塙尻市) 和栗古墳(木島平村)
1,000	古代	平安	農		北原(柳原・南条)	信濃国分寺(上田市)
	中世	鎌倉	業	灰釉陶器の輸入	鍛治田(・・・山口)	
	近世	室町江戸	器	中国陶磁の輸入 城館の増加	長者清水(岡山・温井) 飯山城(飯山)	

——參考「長野縣史」者古資料編——

な関連を有し、中南信方面とは異った文化圏を形成している。この三遺跡はいづれも見晴のいい台地上に存在する。中でも深沢は土偶を大量に出土する遺跡として知られている。中期も後半にはいると、千曲川に接する場所に立地する傾向がうかがわれる。

⑤後、晚期 後期の遺跡としては桑名川東原が古くから著名である。最近にいたって瑞穂宮中丘陵で後期に属する石棺墓が集中して発見され、縄文人の精神生活を知る手掛りを我々にあたえてくれた。ただ集落と墓地とがどのような関連を有するのか今一つ判然していないが、これは今後の課題となろう。

晩期では山の神遺跡が代表的である。この遺跡では魚形線刻画土器が出土している。更に累々とした配石群が検出されている。この他では外様領戸南木ノ下遺跡が該期の遺跡として知られる。後期以降になると遺跡数が中期に比べ激減し低地の進出が認められている。

III. 弥生時代

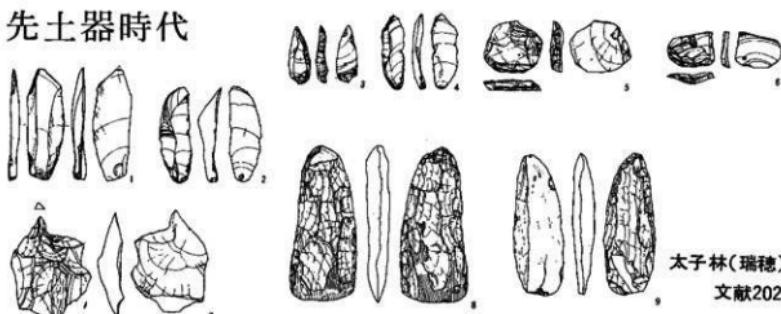
当地方に弥生式文化が波及するに至るのは、弥生中期中半頃である。弥生式遺跡の分布が濃厚に認められるのは、長峰丘陵西側斜面と関田山脈東麓である。それはこの両者の間に肥沃な低湿地外様平が存在するからであろう。広井川によって形成され関田山脈東麓の弥生式遺跡は、海拔350~370mの間に集中して存在する。それはこの地帯が丁度、湧水帯にあたっているためであろう。更に長峰丘陵の東側斜面にはほとんど遺跡が認められないのは東側斜面は急斜面であることや、それに面する常盤平が千曲川の氾濫原であったためと思われる。外様平に面した重要な遺跡としては、小境押出（中期）、照丘高校敷地（中、後期）、柳町（後期）、東長峰（中、後期）、銀治田（中期）があげられる。今回の調査によって法寺に大規模遺跡が広がっていることが確認された。畠全面に夥しい土器片が散在しており、保存状態もよい。このほか大塚、小泉等も長峰丘陵上に存在する良好遺跡である。これ以外では秋津田草川尻、常盤上野両遺跡をあげ得る。特に田草川尻遺跡は昭和47年、同52年に発掘調査を行い後期の住居址と編年編成上重要な資料となる多量の土器を得た。また方形周溝墓を検出した須多峰も重要な遺跡である。弥生式遺跡は飯山盆地の北端にあたる戸狩をすぎるとほとんどその姿を見なくなる。それは、戸狩以北が市川谷と称される狭隘の地を千曲川が穿入蛇行して流れるため、農耕適地が少ないと市川谷に入ると従い積雪量が増大し春の雪消えが極端に遅れるためであろう。千曲川の東西では西側に圧倒的に遺跡が多く東側では稀薄である。

IV. 古墳時代

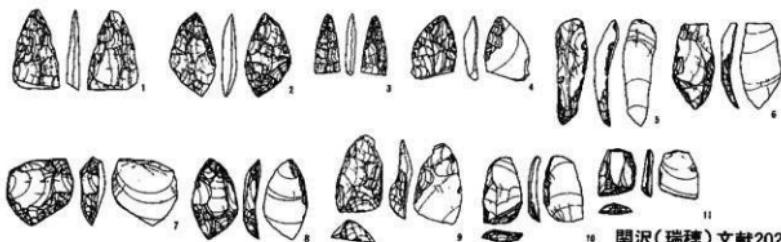
該地方の古墳で注目しておかねばならないのは、秋津勘助山古墳であろう。前方後方墳の古式古墳である。從来、該地方の古墳は後期に入つてから築造されたものとされていたが、勘助山古墳の発見によって古墳時代前期にこの地方でも古墳が築造されるにいたったことが判明した。発見者の松沢芳志氏の大きな功績であるといわねばなるまい。彼によればまだ他にも存在するとしているが、これは今後の究明課題となるであろう。有尾古墳、大塚古墳は古くから知られた古墳である。特に有尾古墳は長野県最北端の前方後円墳（帆立貝式）としてしばしば注目されてきたところである。古墳が濃密に分布するのは、長峰丘陵上、特に大塚の丘陵頂部に連続する大塚古墳群と蓮五里丘古墳群である。長峰丘陵上の古墳は弥生時代以来、外様平の開拓が進展していった証拠といえよう。更に最近静間地域の山麓でも古墳群が発見されている。飯山市の古墳の北端は桑名川馬場古墳である。

古墳時代の遺跡としては、田草川尻、有尾遺跡等が代表的なものである。古墳が多く存在する割合には庶民の生活の痕跡があまりよく判っていない。今後の研究課題といえよう。

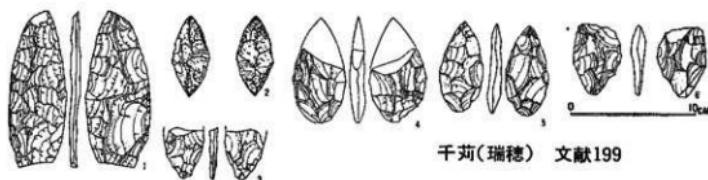
先土器時代



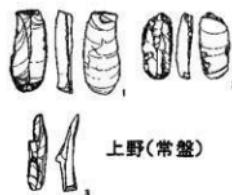
太子林(瑞穂)
文献202



関沢(瑞穂) 文献202



千苅(瑞穂) 文献199



上野(常盤)

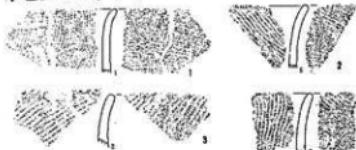


城の前(瑞穂)
文献199



北竜湖(瑞穂)
草創期
文献199

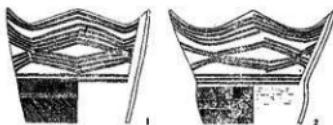
繩文時代



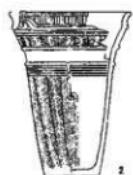
草創期 小佐原(柳原) 文献213



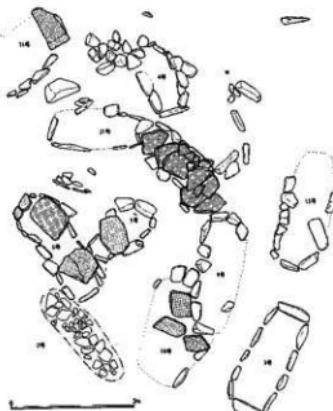
早期 北竜湖(瑞穂) 文献199



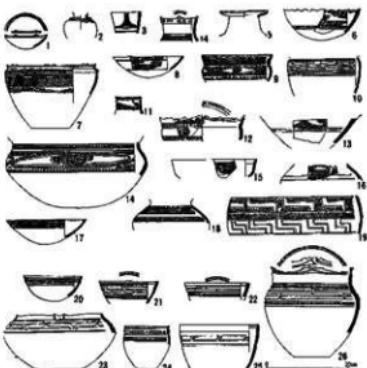
前期 有尾(飯山) 文献216



中期 深沢(秋津) 文献217

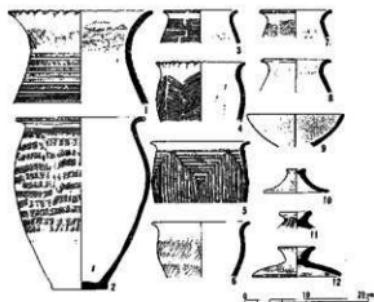


後期 宮中(瑞穂) 石棺状遺構 文献218

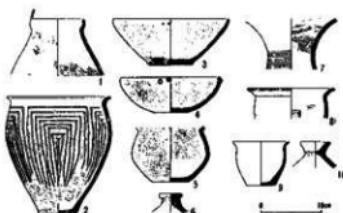


晩期 山ノ神(秋津) 文献219

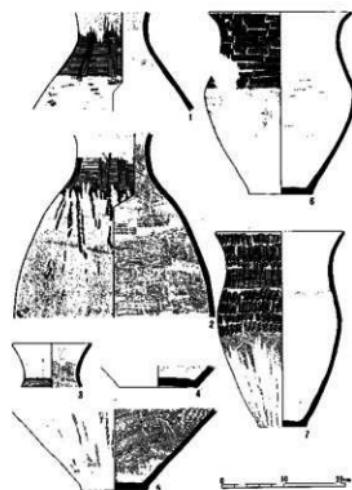
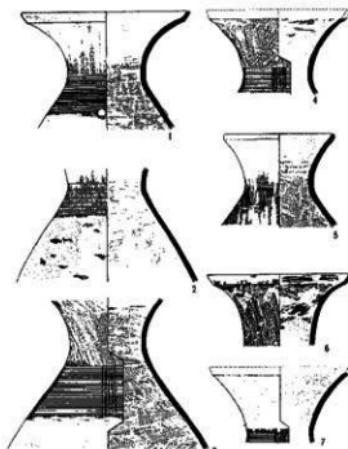
弥生時代



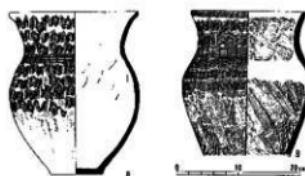
中期 錫冶田 D 地点(柳原) 文献194



中期 錫冶田 C 地点(柳原) 文献194



後期 田草川尻(秋津)

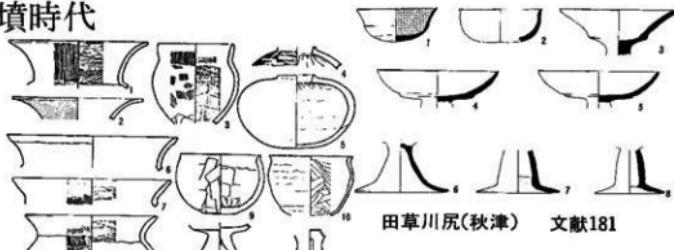


後期 田草川尻(秋津) 文献222



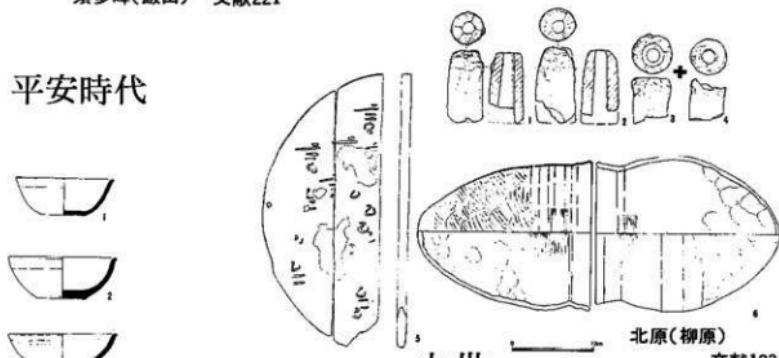
後期 田草川尻(秋津) 文献222

古墳時代

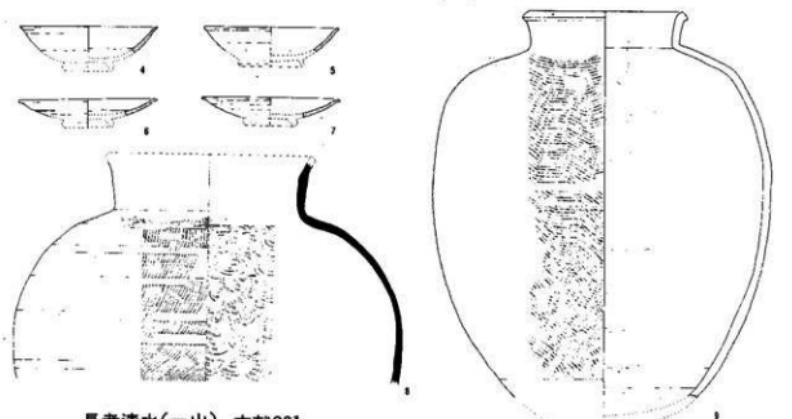


須多峰(飯山) 文献221

平安時代



中世



V. 歴史時代

古墳時代後期から奈良時代にかけて、庶民の生活の痕跡を示す物的証拠は非常に少ない。大規模な豪場整備によって破壊されてしまったのか、あるいは未だ我々の目につかない所に眠っているのか、はたまた何等かの要因によって人々の移動があったためであろうか。

平安時代に入ると飯山地方には再び人々の活動が活発に展開する。特に平安中期に入ると顕著となるようである。これは莊園制の発展と密接なかかわり合いをもっているためであろうか。平安中期の生産址遺跡、墓跡として旭北原遺跡が著名である。平安末期から中世にかけてますます該地方の開拓は進展していった。それは各地に残る山城、館址等が如実にそれを証明しているといえよう。更に物資の交流も盛んに行われるにいたった。これは温井長者清水遺跡出土の珠洲系陶器・古鏡、田草川尻出土の古鏡等が証拠となるであろう。

おわりに

以上各時代にわたって簡単に分布の特徴を記してきたが、先土器時代、縄文時代では千曲川が大きな役割を果したことが指摘できよう。弥生時代では農耕と関連して沖積地を臨む地帯が生活の場として選択されているといえよう。平安時代以降は次第に開拓の歴が進められ、前時代までは不利と認められた地域にも人々の生活の痕跡が認められるにいたるのである。いかに雪が降ろうとも私達の祖先は、一歩一歩黙々として飯山盆地と市川谷の地に開拓の歴を進めてきたといえよう。

発掘調査一覧

No	調査年月日	遺跡名	所在地	時期	発掘主体者	発掘担当者
1	25. 11	尾崎	飯山市外様 東長峯140	弥	飯山市太田水内郷土研究会 森山茂夫	酒誂仲雄
2		東長峯	外様425	弥	外様中学校 神田春雄	
3	27. 11. 8~11. 11	東原	岡山照丘東原	繩	小出切茂夫	神田五六
4	27. 11. 15~11. 22	有尾	飯山市有尾 3560, 3561	繩	田中修一	神田五六
5	29. 4. 24~4. 25	横井(五束)	太田畠山3886	(弥)	江沢雄孝	神田五六
6	30. 10. 7~10. 10	尾崎	外様東長峯	弥	桐原健	神田五六
7	32. 6. 15~6. 20	柳町	寿区柳町423	弥	上条秋之介	神田五六
8	32. 11. 8~11. 10	柳町	寿区柳町423	弥	桐原健健	神田五六
9	33. 11. 10~11. 15	山崎	寿山崎35		清水次郎	神田五六
10	34. 10. 25~10. 30	曾根古墳	常郷大明神2455	古	太田小学校	神田五六
11	35. 11. 23 (36. 8. 23~9. 9)	有尾	飯山3527	古	前沢広光 (桐原健)	
12	38. 8. 9~8. 11	黄金石上	飯山黄金石上 653	古	飯山南高校 校長山田匪次	神田五六
13	38. 11. 30~12. 8	深沢	蓮深沢3481	繩	飯山北高校 北沢公平	高橋桂 神田五六
14	39. 10. 10~10. 18	深沢	蓮深沢3481	繩	飯山北高校 北沢公平	高橋桂
15	40. 8. 1~8. 30	深沢	蓮深沢3481	繩	飯山北高校 北沢公平	高橋桂
16	40. 7. 30~7. 31	須多ヶ峯	須多峯7375	弥	飯山南高校	高橋桂
17	40. 12. 4~ 41. 4. 3	須多ヶ峯	須多峯7375	弥	高橋桂	高橋桂
18	42. 8. 16~8. 25	照里	照里 (飯山第3中)	弥	飯山市教育 委員会	高橋桂
19	44. 4. 19~5. 5	中山	常郷中山617	繩	高橋桂	高橋桂

20	43. 9. 27~10. 7	別府原	柳原別府原	古	高橋 桂	高橋 桂
21	44. 4. 12~4. 13	城ヶ鼻	小笠原6858	弥	高橋 桂	高橋 桂
22	44. 6. 28~6. 30	小佐原	小笠原6798	繩	永峯 光・	永峯 光・
23	45. 11. 1~11. 8	大倉崎外和柳	常盤3864-3	繩(前)	飯山北高校 校長小林信義	高橋 桂
24	45. 9. 11~9. 25	須多ヶ峯	飯山須多ヶ峯 7334の3	弥	飯山市教育 委員会	高橋 桂
26	47. 4. 29~5. 31	田草川尻	蓮北原213	繩~古	田草川尻遺跡 調査会 江口憲隆	高橋 桂
27	47. 8. 17~9. 10	山の神	静間法花寺3 295のイの1 3ノ296のイ	繩(晩)	飯山市教育 委員会	高橋 桂
28	48. 10. 1~10. 21	大倉崎	常盤大倉崎 3864のイ	繩(前)	高橋 桂	高橋 桂
29	48. 5. 12~5. 15	小境	豊田鶴屋敷 323の1	古	飯山北高校 校長吉田正直	高橋 桂
30	50. 7. 25~8. 5	岡峯	照里1、215	弥(中)	飯山市教育 委員会	小林 幹男
31	51. 9. 6~9. 8	仙	豊田曲4977		飯山市教育 委員会	桐原 健
32	51. 10. 12~12. 1	岡峯	當郷岡峯90の3	繩・弥	飯山市教育 委員会	小林 幹男
33	52. 4. 15~8. 15	田草川尻	蓮北原205	繩(弥)	飯山市教育 委員会	高橋 桂
34	52. 4. 15~8. 15	清川尻	静間小屋解120	土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
35	52. 7. 24~7. 29	照丘	照里1930	弥・土師	照丘高校 校長宮林秋男	小林 幹男
36	53. 4. 20~6. 30	北原	北原5369	弥・土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
37	53. 10. 6~10. 12	宮中	瑞穂字宮中435	繩	飯山市教育 委員会	高橋 桂
38	54. 4. 23~6. 10	鍛冶田	旭字鍛冶田	弥・土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
39	54. 6. 30~	宮中	瑞穂宮中	繩	飯山市教育 委員会	高橋 桂

40	55. 7. 6~8. 26	太子林	瑞穂字太子林	先・繩	飯山市教育 委員会	高橋 桂
41	55. 8. 26~9. 19	関沢	瑞穂字畔高	先	飯山市教育 委員会	高橋 桂
42	55. 10. 26~27	南原	瑞穂字南原	土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
43	55. 11. 14~11. 17	北原	旭字北原	繩・土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
44	57. 7. 6~7. 12	田草川尻	静潤四本木2177	弥・土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
45	57. 10. 23~25	大塚	常盤字新田屋浦 1169-5	先	高橋 桂	高橋 桂
46	58. 4. 25~5. 10	大塚	常盤字新田屋浦 1169-5	先	高橋 桂	高橋 桂
47	58. 9. 1~9. 12	北町	飯山2、610	弥	飯山市教育 委員会	高橋 桂
48	58. 10. 23~11. 24	北原	旭字北原5366	繩・弥 土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
49	59. 6. 2~7. 17	長者清水	一山字北村1030	平安・中世	飯山市教育 委員会	高橋 桂
50	59. 6. 2~7. 17	水の沢	一山字水の沢 1481	先	飯山市教育 委員会	高橋 桂
51	59. 7. 22~9. 8	北原	旭字北原5366	繩・弥 土師	飯山市教育 委員会	高橋 桂
52	60. 7. 2~7. 16	田草川尻	蓮字田中 175-2	繩・弥	飯山市教育 委員会	高橋 桂



関沢遺跡の発掘調査（先土器時代）

県道関沢バイパス建設工事に伴い中野建設事務所の依頼により実施した。(昭和54年)



宮中遺跡出土の石棺状造構

市道建設に伴い発掘調査を実施した。(昭和55年)



田草川尻遺跡の発掘調査

数次の調査が行われたが、最も大規模な調査は工場用地造成に伴う第2次調査であった。(昭和52年)

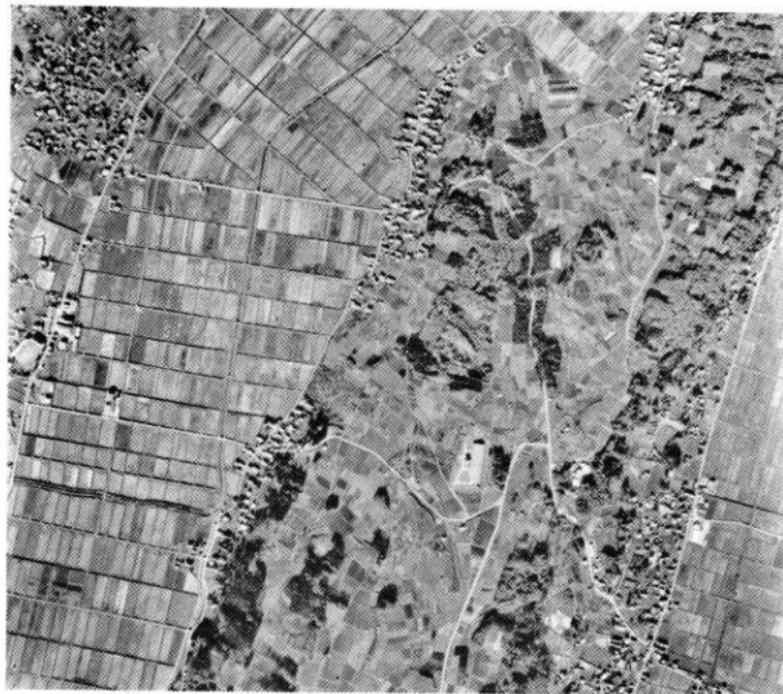


北原遺跡の発掘調査

泉台小学校建設に伴い調査が実施された。(昭和59年)

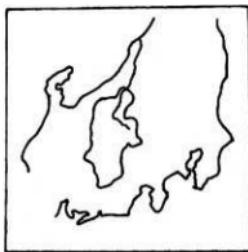
第 2 編

遺 跡 分 布 図



遺跡No.86～90付近

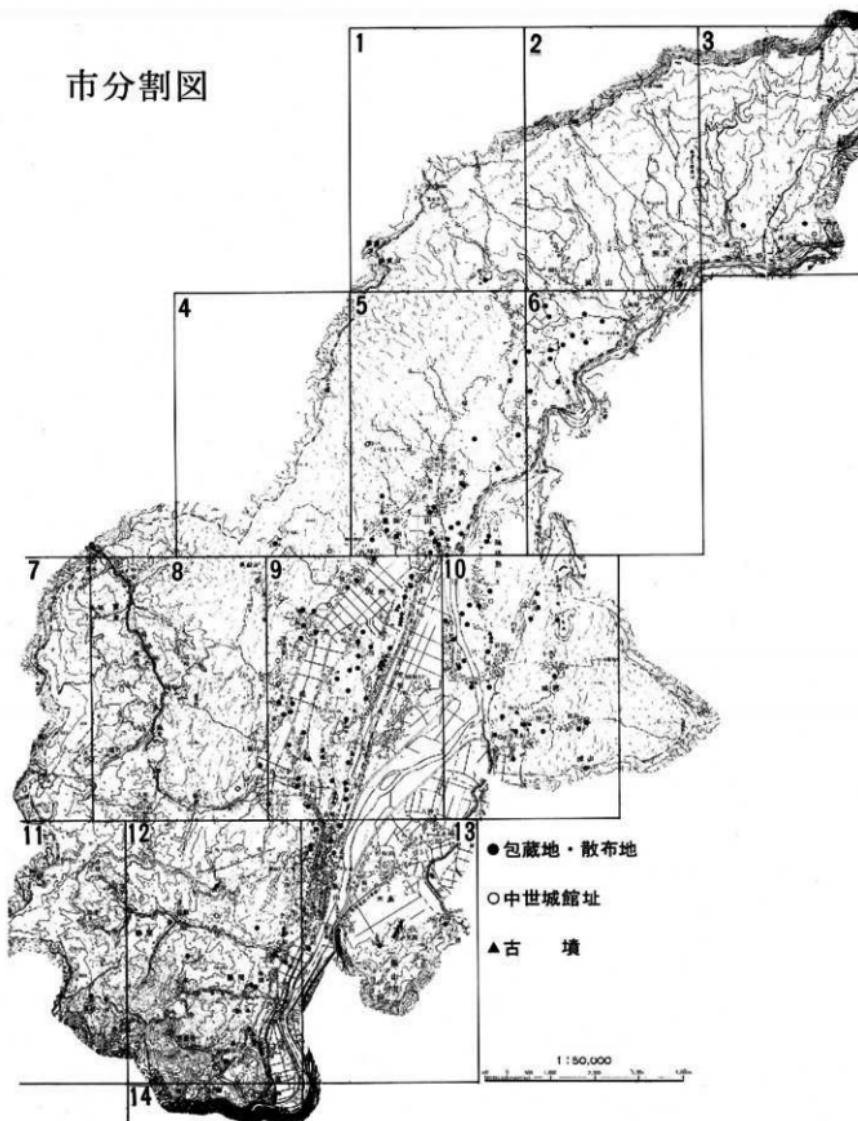
長峰丘陵上の尾崎から市民体育館付近は先土器～古墳時代の遺跡が密集しており、特に弥生時代の遺物がほぼ全面に散布している。



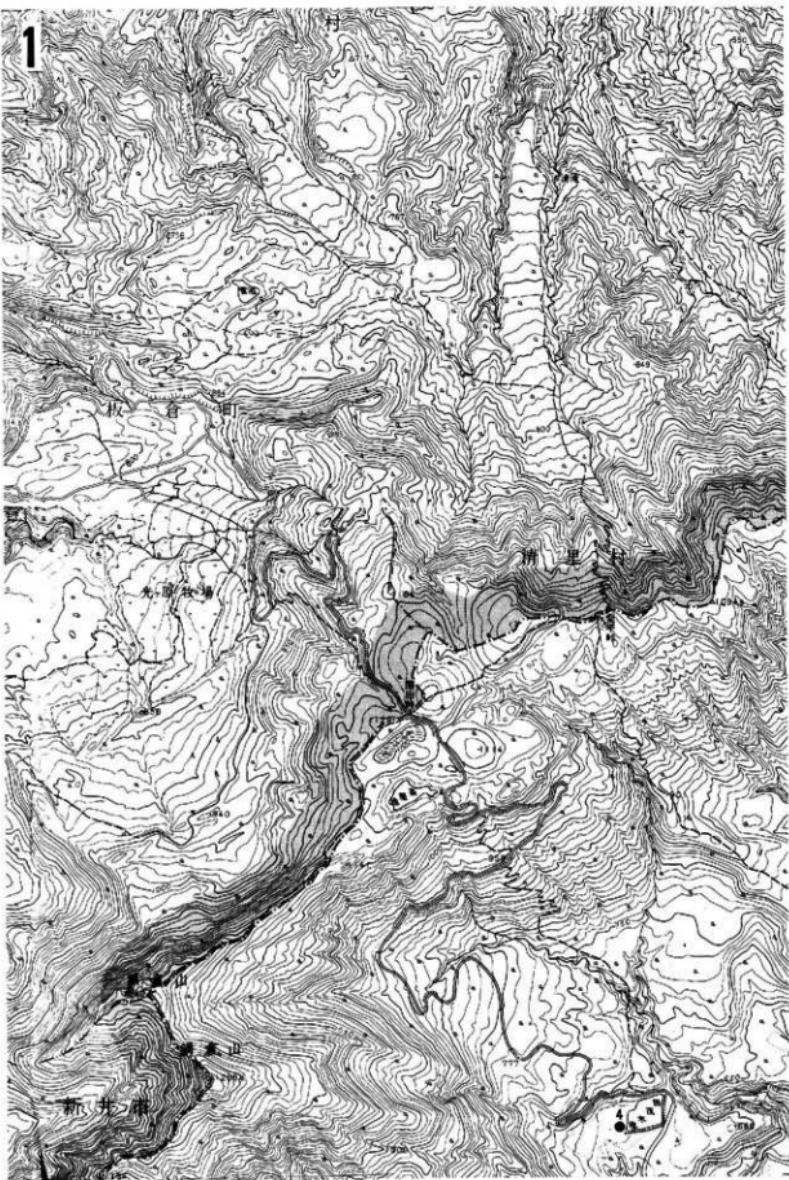
市分割図目次

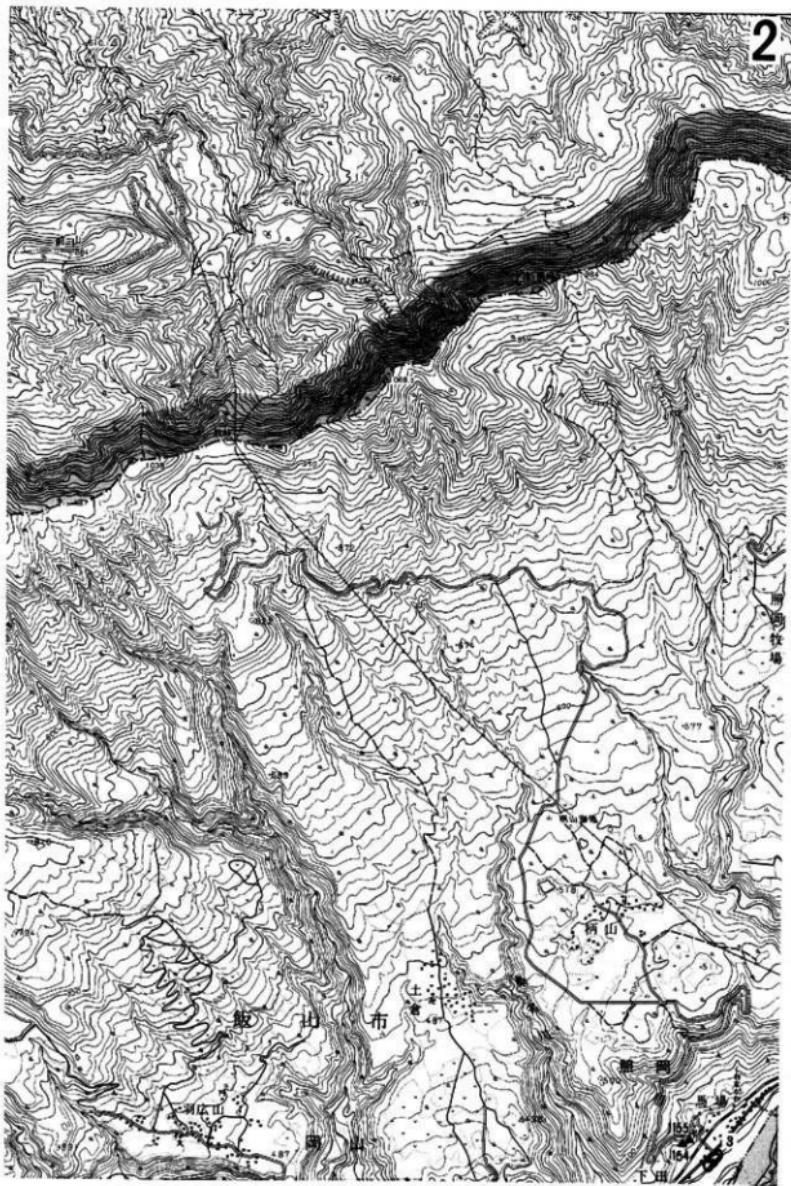
地図 1	岡山(田茂木・茶屋池付近)	18
〃 2	岡山(羽広山・土倉・柄山・桑名川付近)	19
〃 3	岡山(西大瀧付近)	20
〃 4	太田(桂池付近)	21
〃 5	太田	22
〃 6	岡山(上境・下境付近)	23
〃 7	富倉	24
〃 8	富倉・柳原(中谷～山口付近)	25
〃 9	柳原・常盤・外様(長峰丘陵を中心とした地区)	26
〃 10	瑞穂	27
〃 11	秋津・飯山(分道・沓津)	28
〃 12	秋津・飯山(秋津～奈良沢)	29
〃 13	木島・飯山(木島・市ノ口～県町)	30
〃 14	秋津(深沢)	31

市分割図

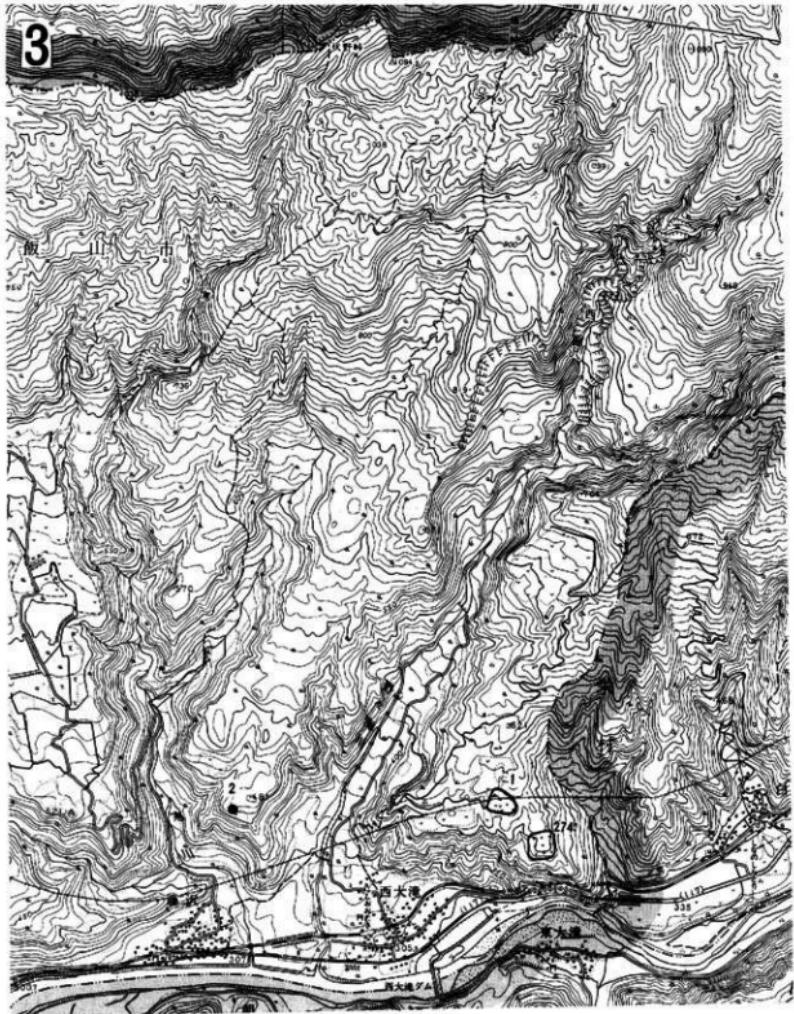


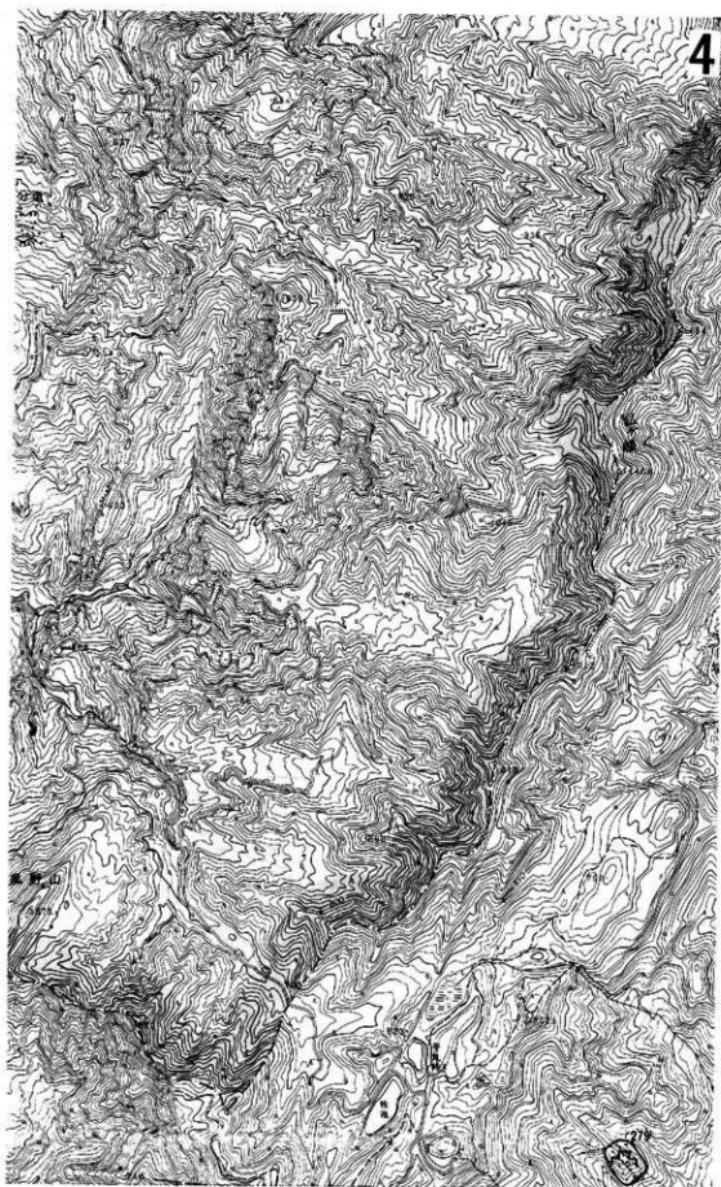
1



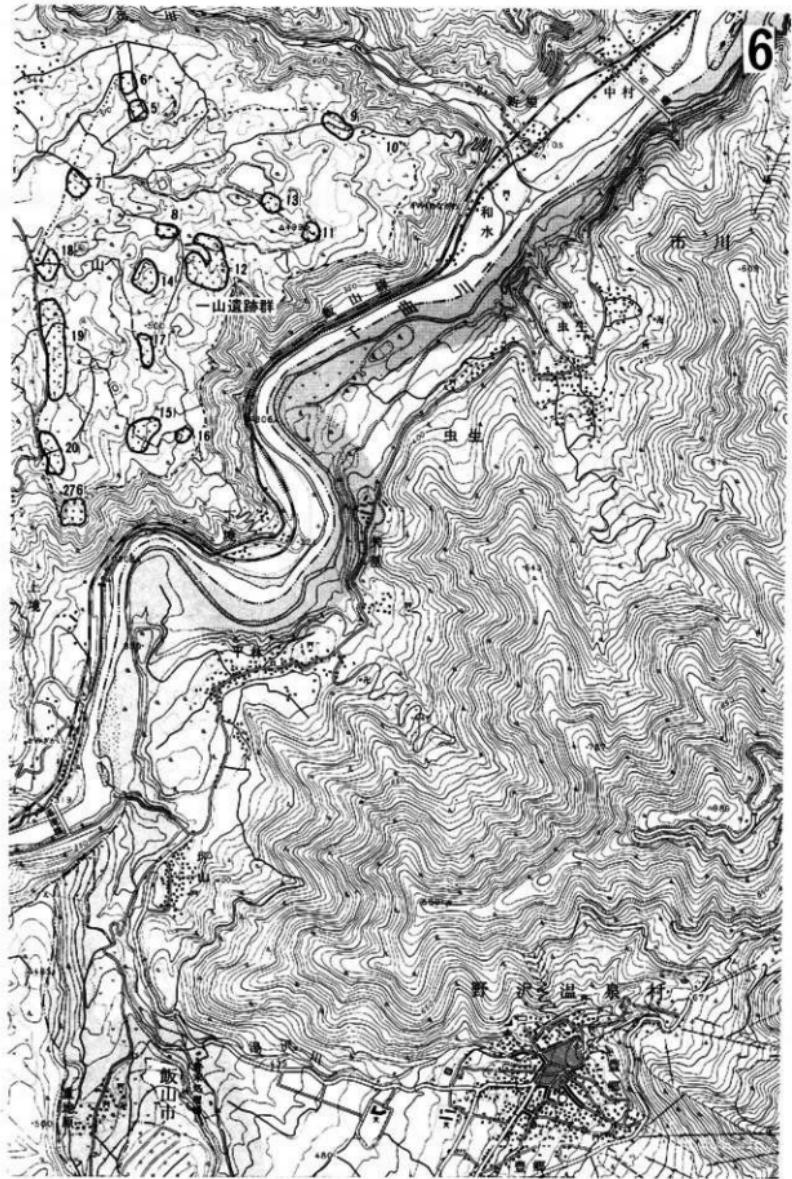


3











千曲川河岸の遺跡(日焼遺跡を望む)

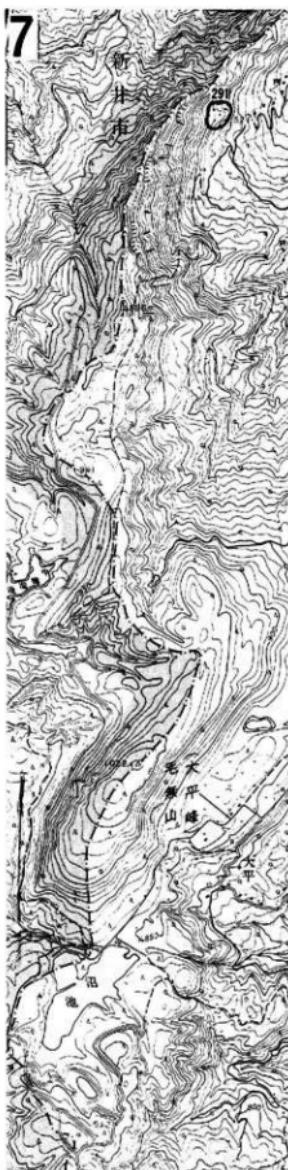
千曲川河岸の段丘・丘陵上には先土器時代遺跡が密集する

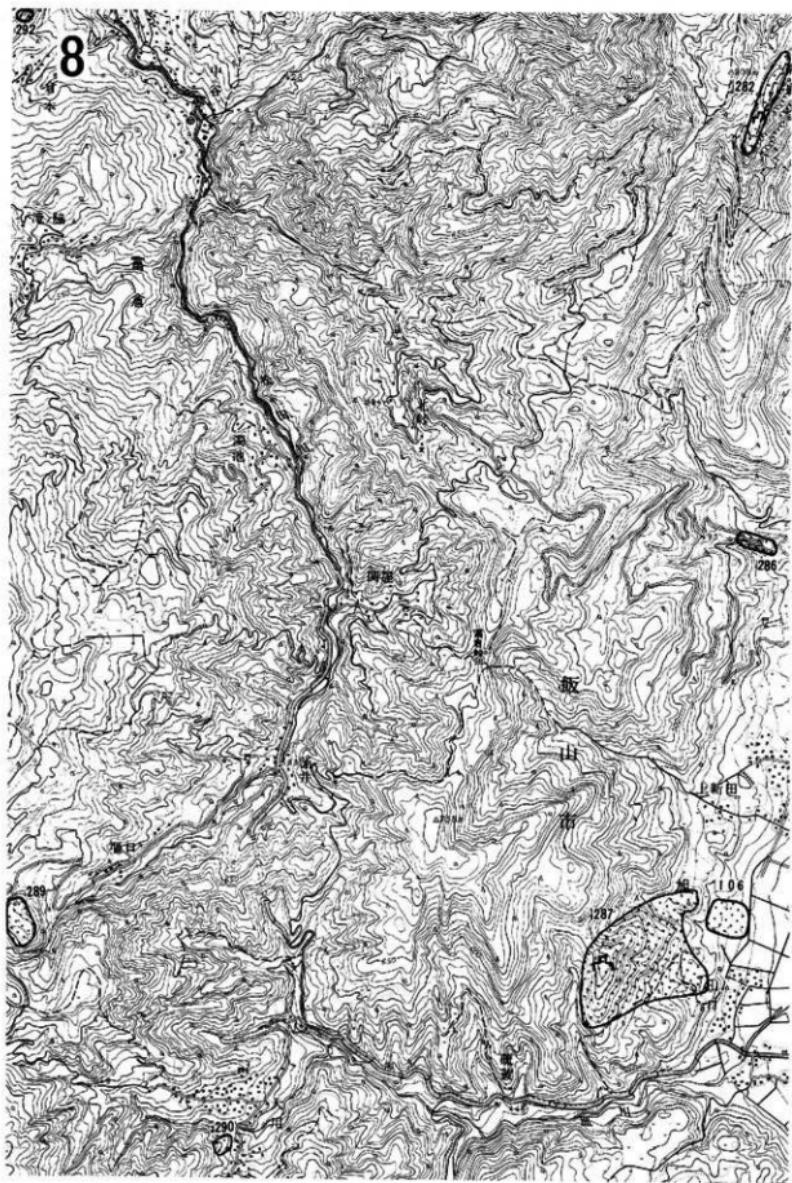


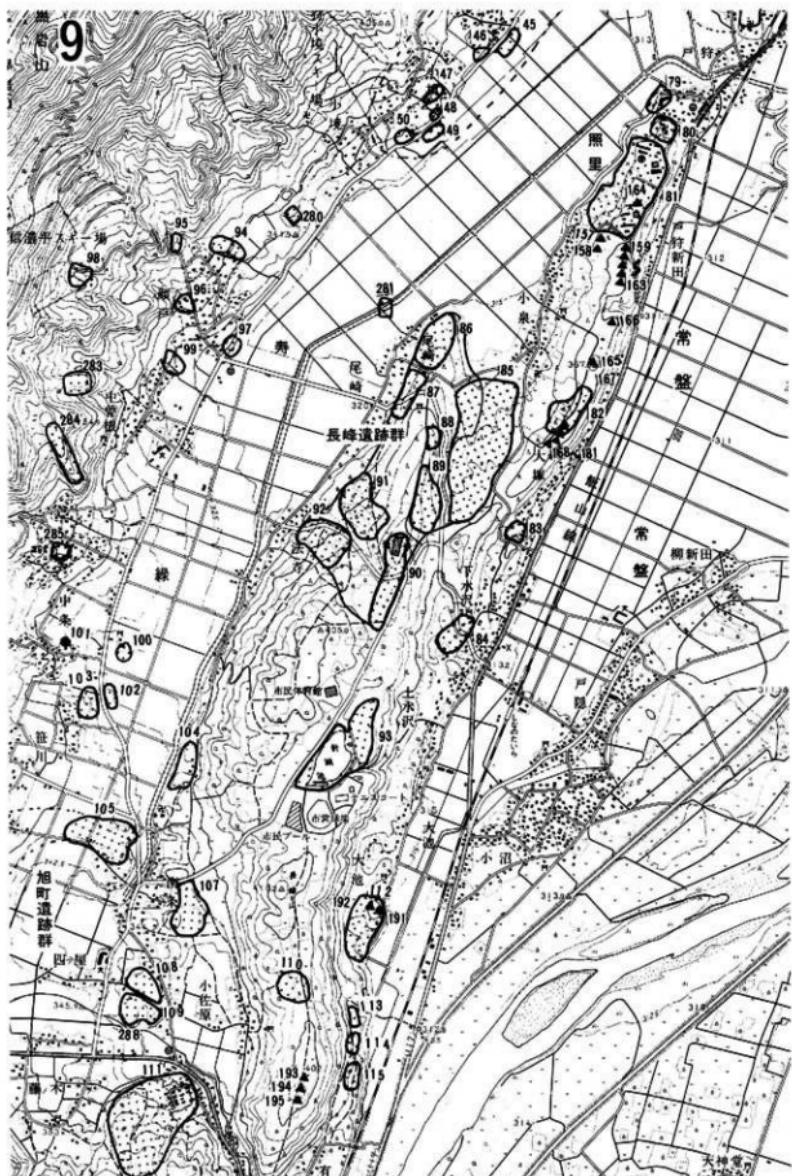
長峰丘陵上の遺跡(下林・西長峰・山崎遺跡等を望む)

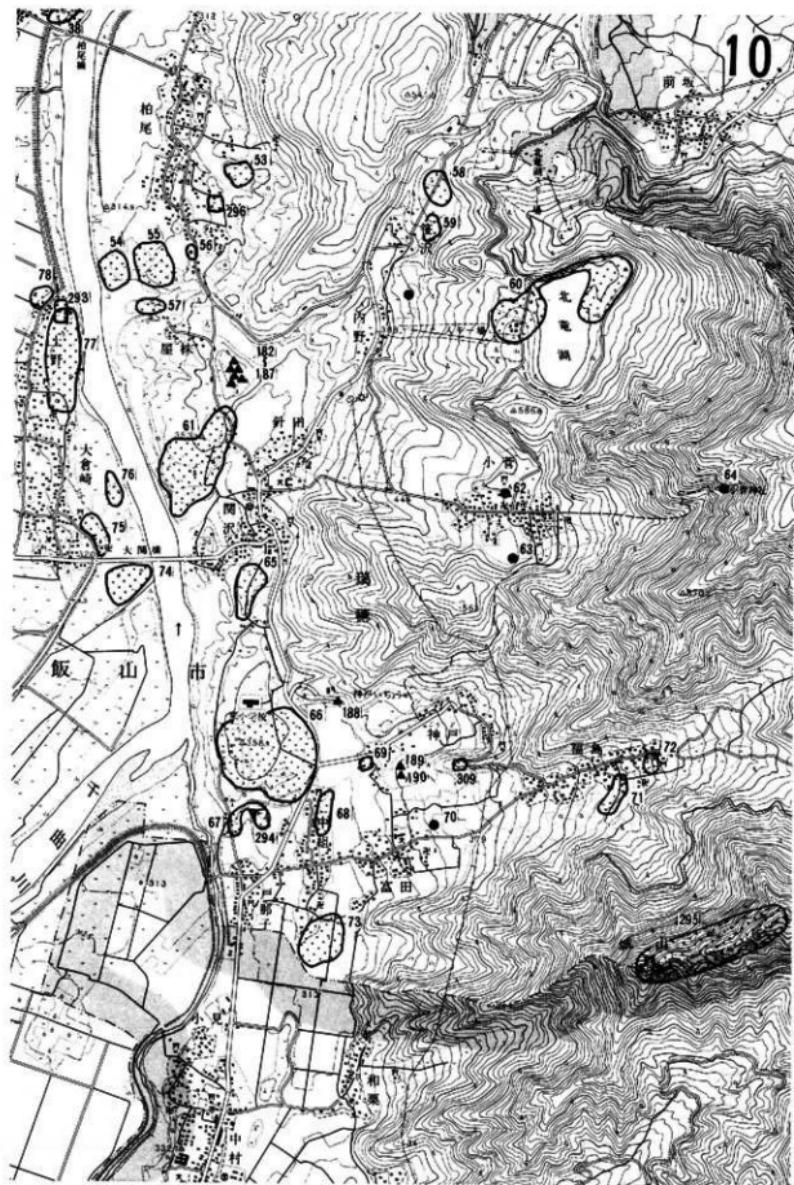


山麓沿いの遺跡(堀之内馬場・横井・佃遺跡等を望む)





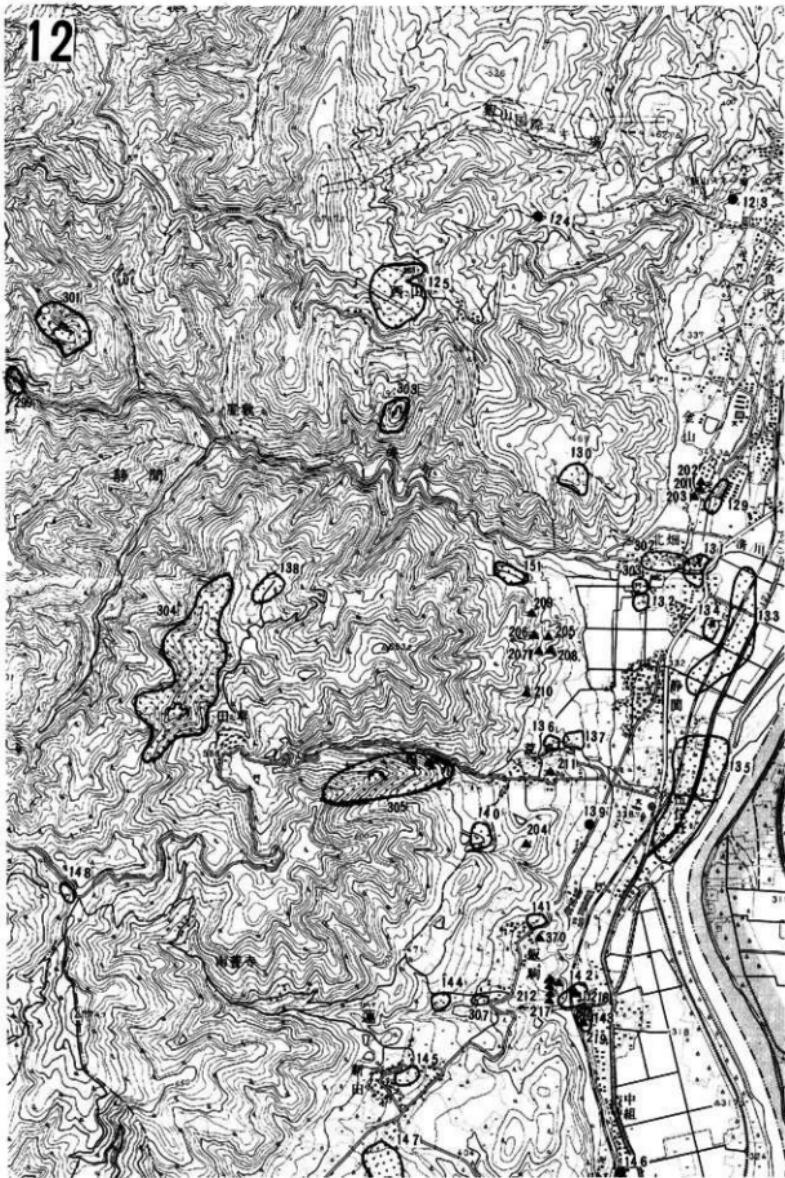




11



12



13





第 3 編
遺 跡 地 名 表



遺跡地図No.5 付近(太田)

千曲川が「市川谷」へ入る左岸の通称大明神丘陵は、未発見の遺跡が多いと推定される。

番号	旧番号	遺跡名	所 在 地	遺 構・遺 物	文献・所蔵者・備考
1	C-35	西 大 滝	照岡・岩の上3888	(繩) 前期炉穴 有尾式、南大原式、上原式 中期前半型式、打石斧 磨石斧、石匙、剥片	(文献) 39、72、86、 112、113、155、179、 203 (所蔵) 北条清登 飯山北高校
2	C-34	下 り 尾	照岡・下り尾	(繩) 楕円押型文土器、有尾式、 石鎌、打石斧	(文献) 39、58、72、 87、93、155、179、 203 (所蔵) 北条清登
3	C-32	東 原	照岡・東原739	(繩) 南大原式、下島式直後型式 中期初頭型式、勝坂式、加曾利E式、堀ノ内式、加曾利B式、石鎌、輕石製浮舟、 土鍬、石皿、石錐、石鏟、 打石斧、獸骨、クルミ (昭和27年発掘調査)	(文献) 11、24、33、 36、39、56、57、67、 72、87、112、113、 118、143、155、179、 203 (所蔵) 飯山市教委 飯山北高校 小田切茂
4	C-7	田茂木平	一山・田茂木平	(繩) 石鎌 (弥) 土器? (地点不明)	(文献) 87、179 (所蔵) 北条清人
5	C-11	水 の 沢	一山・水の沢1481	(先) ナイフ形石器、尖頭器 (繩) 土器 (昭和59年発掘調査) (消滅)	(文献) 63、87、179 203、231 (所蔵) 飯山市教委 北条清登
6	C-10	オリハンザ	一山	(先) 尖頭器、細石刃 (繩) 中期上器、石鎌、打石斧、 石匙 (消滅)	(文献) 63、87、179 203、231 (所蔵) 北条清登
7	C-9	長者清水	一山・北村1030	(平) 竪穴住居1 土師器、須恵器、灰釉陶器、 鉄製麻撃 (中) 土括26、竪穴造構、掘立柱 建築址、柱穴多、漆、顔戸 系、珠洲系、中国系陶磁、 古錢、鐵製釘、刀子、砥石、 硯、石臼	(文献) 72、84、113、 179、203、230、231、 233 (所蔵) 飯山市教委 (昭和59年発掘調査) 館址と推定される

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
8	C-17	カツボ池上	一山・大原	(平) 土師器	(文献) 78、203 (所蔵) 飯山市教委 飯山北高校
9	C-26	藤屋の堤	照岡・藤屋	(繩) 中期後半型式	(文献) 87、179 (所蔵) 北条清登
10	C-20	雨 池	照岡・セギノ	(繩) 土器	(文献) 87、179 (所蔵) 北条清登
11	C-24	休 場	照岡・休場	(繩) 打石斧	(文献) 87、179 (所蔵) 北条清人
12	C-21	鳴沢頭	照岡・鳴沢頭 一山・鳴沢頭	(繩) 楕円押形文土器、南大原式 勝坂式、加曾利E式、掘ノ 内式、石鐵、打石斧、特殊 磨石、磨石斧、石匙、石錐 石鏡 (平) 土師器、須恵器	(文献) 24、25、56、 58、72、87、90、93 113、124、155、179、 203 (所蔵) 北条清登 飯山北高校 飯山市教委
13	C-21	カササギ野 池	照岡・カササギ野 池	土器	(文献) 87、179 (所蔵) 北条清登
14	C-18	新 堤	一山・新堤	(繩) 前期後葉型式、中期前半型 式、石鐵、剝片 (旧カツボ池遺跡とした地点)	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
15	C-18	カツボ池	一山・カツボ池	(繩) 押型文土器、中期土器、石 鐵 (平) 土師器	(文献) 58、72、87、 93、113、179、203、 (所蔵) 北条清登 飯山北高校 飯山市教委
16	新 下 境	一山・下境		(平) 土師器	(所蔵) 飯山市教委
17	新 大 原	一山・大原		土器片	(所蔵) 飯山市教委
18	C-8	向 原	一山・向原	(繩) 楕円押型文土器、南大原式、 下島式、勝坂式、加曾利E 式、石鐵、磨石斧、刃器	(文献) 8、72、87、 83、113、155、179、 203 (所蔵) 北条清人
19	新 中塚谷地	一山・向原 四ツ筋		(先) 剥片 (平) 土師器	(所蔵) 飯山市教委

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
20	C-2	上 境	一山・東外峯 城 山	(先) 黒耀石剝片、安山岩剝片	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
21	新	温井(仮)	一山・(向原)	(先) 剥片	(所蔵) 飯山市教委
22	旧	トトノ池	一山・西外峯	(先) 剥片 (平) 土師器	(文献) 31、87 (所蔵) 飯山市教委
23	C-3	西 外 峰	一山・天狗峰	(先) 剥片? (繩) 中期土器、石器	(文献) 31、87
24	C-1	中 外	一山・中外	(尖) 尖頭器、搔器、剝片 (繩) 土器片	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
25	新	雨池グラウンド	常郷・雨池	(先) 尖頭器、搔器、剝片	(文献) 235 (所蔵) 飯山市教委
26	新	雨 池 下	常郷・竹カ花	剝片(安山岩)	(所蔵) 飯山市教委
27	B-29	大 明 神	常郷・大明神2484 赤羽根	(旁) 栗林式、石鎌、磨石鎌、太 型蛤刃石斧 (古) 土師器	(文献) 22、39、57 68、72、179、203 (所蔵) 江口達雄 飯山市教委
28	新	赤 羽 根	常郷・赤羽根・川面	(先) 剥片	(所蔵) 飯山市教委
29	B-60	小 平	常郷・小平	(繩) 前期土器	(文献) 31、87、179 203
30	B-66	今 井	常郷・今井	(平) 土師器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
31	B-49	五 庁	常郷・五庁1026	(繩) 中期後半型式、後期、晚期	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
32	B-28	千 駄 坊	常郷・千駄坊1336	(繩) 土器、磨石斧	(文献) 57 (所蔵) 飯山北高校 江口達雄
33	新	千駄 坊 南	常郷・割山	(繩) 土器 (弥) 土器	(文献) (所蔵) 飯山市教委
34	新	五 庁 東	常郷・畔高	(弥) 箱清水式	(文献) (所蔵) 飯山市教委
35	B-50	割 山	常郷・割山850	(繩) 上原式 (弥) 栗林式 (平) 土師器・須恵器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山市教委 飯山北高校

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
36	B-48	中山	常郷・中山617	(繩) 前期前葉、中期中葉、後期 前葉土器、打石斧、土偶 (昭和43年発掘調査)	(文献) 149、151 179、203 (所蔵) 飯山北高校
37	新	大深	常郷・中山	(平～中) 土師器	(所蔵) 飯山市教委
38	B-30	真宗寺裏	常郷・寺岡700	(先) ナイフ形石器、細石刃 (繩) 神ノ木式、有尾式 (弥) 箱清水式、大型蛤刃石斧 (平) 土師器、灰釉陶器	(文献) 39、56、57、 68、71、72、113 149、168、179、203 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
39	B-54	北条(b)	豊田・北条	(繩) 土器	(文献) 179 (所蔵)
40	B-57	岡峰	照丘・黒井	(繩) 竪穴住居 前期中葉土器 (弥) 中期土器 (平) 土師器 (昭和50・51年発掘調査)	(文献) 167、179、 203 (所蔵) 勤労者青少年 ホーム
41	B-62	仰	常郷・仰	土師器? (昭和51年発掘調査)	(文献) 173、179
42	B-31	堀之内馬場	豊田・馬場	(弥) 栗林式、箱清水式、大型蛤 刃石斧、有孔石檢	(文献) 19、23、56 57、68、71、72、113 149、168、179、203 (所蔵) 石田孝
43	B-32	横井	農田・横井	(繩) 南大原式 (弥) 栗林式、扁平片刃石斧、大 型蛤刃石斧、環状石斧、土 偶?	(文献) 43、56、57、 68、72、113、179、 203 神田加奈登 (所蔵) 江口達雄
44	B-61	五束	豊田・(南沢)	(繩) 竪穴住居1 加曾利E式 (平) 土師器	(文献) 143、179、 203 (所蔵) 飯山北高校
45	B-34	柳沢A	豊田・間々下2078	(繩) 中期後葉、後期前葉土器 (古) 和泉期、鬼高期	(文献) 72、113、 149、179、203 (所蔵) 飯山北高校
46	B-67	柳沢B	豊田・間々下	(弥) 中期土器	(所蔵) 高橋桂

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
47	B-58	鶴屋敷	農田・鶴屋敷306	(勞) 箱清水式	(文献) 1、72、179 203 (所蔵) 飯山茂夫
48	B-35	桜 沢	豊田・桜沢722	(土師器) (昭和49年発掘調査)	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校
49	B-69	小 境	豊田	(弥) 中期・後期土器 (平) 土師器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
50	B-36	押 出	豊田・押出1167	(弥) 栗林期土塁1 栗林式 (古) 柳町期溝状遺構 柳町式 (昭和24・29・48年発掘調査)	(文献) 50、56、57、 58、68、72、96、113 149、155、164、179、 203 (所蔵) 飯山北高校
51	E-6	中 原	瑞穂豊・中原	(繩) 中期土器・石槍	(文献) 34、65、72、 113、179
52	E-7	猫 屋 敷 (旧南原)	瑞穂豊・南原	(弥) 箱清水式 (古) 土師器	(文献) 179、198 (所蔵) 渡辺正三
53	E-1	上ノ原	瑞穂豊・上ノ原18 24	(繩) 中期初頭型式・前葉土器 打石斧・磨石斧・石皿・凹石・土偶	(文献) 155、179、 199、203 (所蔵) 飯山市教委 飯山北高校
54	E-5	日 燐	瑞穂豊・日燐1075	(先) ナイフ形石器、搔器、彫器 石核、石刃、剥片	(文献) 155、179、 199、203 (所蔵) 飯山市教委
55	E-3	南 原	瑞穂豊・南原1199	(繩) 前・中・後期土器・石器、 打石斧・多頭石斧・凹石 石皿	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山市教委
56	E-4	堺ノ沢	瑞穂豊・南原1134	(弥) 箱清水式	(文献) 179 (所蔵) 飯山市教委
57	E-8	屋 株	瑞穂・屋株	(先) 剥片? (繩) 土器	(文献) 179 (所蔵) 飯山市教委
58	E-23	道 添	瑞穂・笛沢5717	(繩) 押型文土器、前期・中期土器	(文献) 179、199、203 (所蔵) 飯山北高校
59	E-22	水 出 口	瑞穂・笛沢5608	(繩) 押型文土器、前期・中期 後期土器	(文献) 179、199、203 (所蔵) 飯山北高校

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺・構・遺物	文献・所蔵・備考
60	E-10	北竜湖	瑞穂・堂道平7331	(繩) 表裏繩文土器、押型文土器	(文献) 6、12、34、
		a 地点	(壳店前)	尖頭器、石匙、石鑿	58、65、72、93、112、
		b 地点	(苗圃)	(繩) 前期土器、石匙、凹石、石鑽、磨石	113、155、164、168、
		c 地点	(水門付近)	(先) 細石刃核	179、192、199、203 (所蔵) 北竜湖観光協会
		d 地点	(弁天島東縁)	(繩) 後期・晚期土器	
		e 地点	(弁天島北縁)	(平) 土師器、須恵器	飯山北高校
		f 地点	(湖東北縁)	(繩) 片刃石斧	山岸辰夫
		g 地点	(湖北縁所)	(繩) 前期前葉型式	飯山市教委
		h 地点	(湖北西縁)	(弥) 箱清水式	(現在は湖底となる地
		i 地点	(文化服装学院テニスコート付近)	(繩) 石鑿	点が多い)
				(繩) 表裏繩文土器	
				(繩) 押型文土器	
61	E-9	太子林	瑞穂・太子林4438	(先) ナイフ形石器、刃部磨製石斧、彫器、搔器、刃器、剝片、(昭和55年発掘調査)	(文献) 34、65、72、 179、196、202、203 (所蔵) 飯山市教委
62	E-26	小菅神社里宮	瑞穂・小菅(小菅神社里宮)	(繩) 前期土器	(文献) 179、203
				(平) 土師器	(所蔵) 小菅神社
63	E-11	南竜池	瑞穂・南竜池	(平) 土師器	(文献) 1、12、65、 72、113、179、203
64	E-25	小菅神社奥社	瑞穂・小菅奥社(小菅神社奥社)	(繩) 中期土器	(文献) 179、203 (所蔵) 小菅神社
65	E-27	関沢	瑞穂・畔高	(先) 尖頭器、尖頭削器、搔器、剝片	(文献) 179、196、 202、203、212、214 (所蔵) 飯山市教委
66	D-2	宮中	瑞穂・宮中3187	(繩) 中期土坡、後期石棺状遺構 配石 中期土器、掘ノ内式、加曾利B式、土偶、打石斧、石皿、石鑽、磨石斧、石棒、瑪瑙、櫛、玉 (昭和53・54年発掘調査)	(文献) 1・6・13、 15、23、39、65、72、 113、168、179、185、 186、185、189、197、 203、218 (所蔵) 飯山市教委

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
67	D-3	千 茎	瑞穂・千茎	(先) 尖頭器、彫器、搔器、細石刃、細石刃核、剥片 (平) 土師器	(文献) 6、64、72、155、164、168、179、203、215 (所蔵) 飯山市教委
68	D-38	城 の 前	瑞穂・城の前2500	(先) 尖頭器	(文献) 168、179、203 (所蔵) 小林英雄
69	D-34	猿 飼 田	瑞穂・猿飼田	(平) 土師器	(文献) 65、72、113、179、203、215 (所蔵) 森山国士
70	D-4	木 原	瑞穂・木原	(先) 尖頭削器 (繩) 中期土器、打石斧、磨石斧 石棒	(文献) 72、113、168、179、203 (所蔵) 森山国士
71	D-33	寺 下	瑞穂・寺下	(繩) 中期土器	(文献) 72、179、203 (所蔵) 森山国士
72	D-32	一杯 清 水	瑞穂・一杯清水	(繩) 中期土器、石鐵	(文献) 179、203 (所蔵) 森山国士
73	D-39	尾 峠	瑞穂・曾根	(先) 太型蛤刃石斧 (平) 土師器	(文献) 65、72、179、203 (所蔵) 小林英雄
74	B-2	瀬 附	常盤・瀬附3980	(先) ナイフ形石器、細石刃核 (繩) 前期竪穴住居 前・中期土器、石鐵、打石斧、凹石、石皿、磨石斧、石匙、木の実炭化物 (昭和24年発掘調査)	(文献) 33、39、44、48、56、58、59、71、72、83、116、118、119、155、168、179、203 (所蔵) 常盤小学校 飯山北高校 飯山市教委
75	B-3	大 倉 峠	常盤・外和柳3826	(先) 刃器 (繩) 前期竪穴住居2、集石1 南大原式、上原式、下島式 磨石斧、打石斧、石鐵、凹石、石皿、石匙、石鐵、 (昭和45・48年発掘調査)	(文献) 48、151、155、166、179、203 (所蔵) 飯山北高校

番号	旧番号	遺跡名	名在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
76	B-41	大倉崎Ⅱ	常盤・外和榔	(縄) 石鎌 (平) 土師器	(文献) 112、179、 203 (所蔵) 飯山北高校
77	B-44	上野	常盤・北原3453	(先) 搗器、彫器、石刃、石核、 剝片 (縄) 中期初頭型式 (弥) 栗林式、箱清水式 (平) 穴住居 土師器	(文献) 155、164、 168、179、203、 (所蔵) 森山國士 常盤小学校 飯山北高校
78	B-45	上野Ⅱ	常盤・道下	(平) 土師器	(文献) 1、179、203 (所蔵) 飯山北高校
79	B-24	旧照里小学校	照里・西914	(弥) 栗林式	(文献) 179 (所蔵) 石田
80	B-26	光明寺前	照里・長峰1834	(弥) 栗林式、箱清水式、石鎌、 (昭和54年発掘調査)	(文献) 1、72、91、 113、179、203 (所蔵)
81	B-23	照丘	照里・長峰1878	(弥) 中期窪穴住居 栗林式、百瀬式、大型蛤刃 石斧、扁平片刃石斧、木製品 (古) 円形周溝造構(No.164) 和泉式 (昭和35・42・52年発掘調査)	(文献) 91、96、112、 113、117、118、119、 155、164、173、179、 203 (所蔵) 飯山北高校 飯山照丘高校 高橋桂
82	B-19	大塚	常盤・道添1203	(先) ナイフ形石器、彫器、細石刃、石核、剝片 (弥) 栗林式、箱清水式、石鎌、 石包丁、細形管玉、勾玉 (平) 土師器、須恵器 (中・近) 塚(並列築造) (昭和57・58年発掘調査)	(文献) 72、77、113、 119、155、164、168、 179、203 (所蔵) 丸山徳夫 第三中学校 飯山北高校 高橋桂
83	B-17	水沢	常盤・下水沢	(弥) 栗林式、箱清水式、石鎌、 大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、細形管玉、勾玉	(文献) 1、72、113 119、179、203 (所蔵) 常盤小学校 清水界

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺跡・遺物	文献・所蔵・備考
84	B-69	下水沢	常盤・下水沢	(平) 土師器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
85	B-22	小泉	常盤・小泉	(弥) 中期竪穴住居 栗林式、百瀬式、箱清水式	(文献) 112、113、 119、145、155、164、 179、203 (所蔵) 飯山黒丘高校 飯山北高校
86	B-13	柳町	寿・柳町412	(弥) 後期竪穴住居2 箱清水式 (古) 竪穴住居3 柳町式 (昭和26・32年発掘調査)	(文献) 77、79、84、 110、113、114、118、 120、143、179、203 (所蔵) 飯山北高校 飯山南高校
87	B-12	山崎	寿・山崎351	(弥) 栗林式、箱清水式、石鎚 磨石斧、石包丁、管玉、 翠勾玉、紡錘車 (昭和33年発掘調査)	(文献) 1、72、74、 77、96、113、120、 121、125、143、179、 203 (所蔵) 飯沢澄大
88	新尾崎南 (仮称)		寿・長峰	(先) 刀器、剝片 (弥) 箱清水式	(文献) 235 (所蔵) 飯山市教委
89	B-14	東長峰	寿・東長峰161	(弥) 後期竪穴住居10 栗林式、百瀬式、箱清水式 石鎚、磨石鎚、磨石、太 型蛤刃石斧、扁平片刃石斧 石庵丁、細形管玉、土製勾 玉、鉈 (昭和25・30年発掘調査)	(文献) 1、4、21、 26、27、28、39、51、 52、54~58、63、66、 69~74、84、113、118 120、141、143、155、 164、174、179、203 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
90	B-59	西長峰	寿・東長峰103	(弥) 竪穴住居 栗林式、箱清水式 (昭和25年発掘調査)	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
91	B-20	下林	緑・下林230	(弥) 栗林式、箱清水式・管玉、 曲玉、直刀?	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山市教委

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
92	B-15	法寺	緑・中林251	(弥) 栗林式、箱清水式、石鎌、石庵丁	(文献) 1、22、27、28、39、72、113、179 203 (所蔵) 飯沢澄夫 飯山北高校 八重田満
93	B-47	針尾池	常盤・長峰431	(先) 刃器 (縄) 表裏繩文土器、押型文土器 前期前半土器、凹石、ス タンブ状石器 (弥) 栗林式、箱清水式 (半) 土師器、須恵器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
94	B-52	頬戸第5	寿・頬戸	(縄) 晩期土器	(文献) 179 (所蔵) 高橋桂
95	B-9	頬戸大天狗	寿・大天狗	(弥) 磨石鎌、磨石斧、勾玉	(文献) 179、203 (所蔵)
96	B-10	頬戸南木ノ下	寿・南木下1343	(縄) 晩期土器、打石斧、石皿、 石鎌、石刃 (弥) 箱清水式、磨石鎌	(文献) 1、7、18、 20、28、29、39、62、 63、72、111、120、 155、179、203 (所蔵) 田村況城 飯山北高校
97	B-11	頬戸道下	寿・道下901	(縄) 中期堅穴住居 中期土器、シカ、イノシシ の骨 (昭和27年発掘調査)	(文献) 1、72、113、 143、179、203 (所蔵) 飯山北高校
98	B-8	頬戸出口	寿・出口	(弥) 石鎌、磨石鎌、白玉	(文献) 179、203 (所蔵)
99	B-55	釜瀬	中曾根・釜瀬	(縄) 中期土器 (弥) 栗林式、箱清水式	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
100	B-53	布施田神社	緑・布施田	(半) 上師器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
101	B-56	島	緑・島久畠	(縄) 中期・後期土器	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山市教委

番号	遺跡名	遺跡名	所 在 地	遺 構 ・ 遺 物	文献・所蔵・備考
102	B-64	釜 川	旭・釜川	(繩) 中期土器、石鏃、石皿 (繩) 窓穴住居 3 中期後半土器 (古) 土師器 (平) 須恵器 (昭和43年発掘調査)	(文献) 179 (所蔵) 堀川一郎
103	B-5	別 府 原	旭・別府原6737	(繩) 窓穴住居 3 中期後半土器 (古) 土師器 (平) 須恵器 (昭和43年発掘調査)	(文献) 126、151、 154、179、203 (所蔵) 飯山北高校
104	新	正 行 寺 北 (仮称)		(繩) 前期土器 (平) 土師器	(文献) (所蔵) 飯山市教委
105	新	旭町遺跡群 北 原	旭・北原5369	(繩) 晩期無文土器 (弥) 栗林式 (平) 窓穴住居 2、土塙(鐵冶炉) 48、井戸 5、甕棺墓 1、掘 立柱建築址 9 土師器、須恵器、木製品、 鉄製品、砥石、かなとこ石 (昭和53、56、58、59年発掘)	(文献) 179、183、187、 193、201、203、232 (所蔵) 飯山市教委
106	新	旭町遺跡群 鐵冶 田	旭・鐵冶田	(繩) 押型文土器 (弥) 窓穴遺構 2 栗林式・百瀬式 (平) 土塙 27 土師器 (中) 井戸 6 内耳土器	(文献) 194、203 (昭和54年発掘調査) (所蔵) 飯山市教委
107	新	東 源 寺	旭・東源寺	(先) 刻片? (平) 土師器、須恵器	(文献) (所蔵) 飯山市教委
108	B-6	鬼ヶ峰	小佐原・西小佐原 6809	(弥) 箱清水式 (平) 土師器	(文献) 72、113 (所蔵) 飯山北高校
109	B-1	小 佐 原	小佐原・西小佐原 6385	(繩) 表裏繩文土器、前期後葉、 中期初頭土器、石鏃、特殊 磨石 (弥) 窓穴住居 栗林式、箱清水式、ドング リ、クルミ炭化物 (昭和44年発掘調 査)	(文献) 72、113、 123、151、155、164、 174、179、203、204、 213。 (所蔵) 飯山北高校 永堀光一

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
110	B-65	長峰 (仮称)	小佐原・下長峰 ・小佐原割林	(先) 尖頭器、石刃、剥片	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
111	A-18	須多峯	飯山・須多峯7317	(繩) 竪穴住居 前期中葉、中期前葉土器 打石斧 (弥) 方形周溝墓2 栗林式、箱清水式、勾玉、 鉄錐 (古) 竪穴住居3 土師器、砥石 (昭和40、41、45年発掘調査)	(文献) 102, 103 104, 107, 110, 112, 113, 114, 118, 121, 141, 143, 151, 154, 155, 159, 164, 175, 176, 179, 203 (所蔵) 飯山市教委 高橋桂
112	B-21	お茶屋	大池・お茶屋	(繩) 土器 (弥) 栗林式、箱清水式 (?) 土師器	(文献) 72, 113, 119, 179, 203 (所蔵) 飯山北高校
113	A-45	長者塚	飯山・長者塚5870	(繩) 前期土器 (弥) 栗林式 (平) 土師器	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校
114	A-44	林子畠	飯山・池前	(古) 土師器 (平) 土師器	(文献) 179, 203 (所蔵) 飯山北高校
115	A-43	黄金石上	飯山・黄金石上 6163	(平) 竪穴住居址 土師器、環状鉄製品 (昭和38年発掘調査)	(文献) 95, 112, 113, 143, 179 (所蔵) 飯山南高校
116	A-1	有尾	飯山・有尾3510	(繩) 前期竪穴住居2 有尾式、上原式、下島式 加曾利式、石籬、凹石、 磨石斧、石匙、石錐 (弥) 栗林式、箱清水式 (古) 鬼高期竪穴住居1 和泉式、鬼高式 (平) 土師器、灰釉陶器 (昭和24、27、35年発掘調査)	(文献) 39, 47, 56, 58, 60, 61, 64, 71 72, 78, 80, 86, 100, 113, 118, 143, 149, 150, 155, 179, 203, 210, 216 (所蔵) 飯山南高校 飯山市教委 飯山北高校

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
117	A-4	ガニ沢上	飯山・蟹沢	(縄) 土器 (弥) 箱清水式	(文献) 71、72、113、 179、203 (所蔵) 飯山北高校
118	A-5	大型寺池	飯山・庚塚7668 雨池7656	(縄) 南大原式、打石斧	(文献) 179、203 (所蔵) 飯山北高校
119	A-37	北町	飯山・北町	(弥) 栗林式 (昭和58年発掘調査)	(文献) 179、203、 223 (所蔵) 飯山北高校 飯山市教委
120	A-36	北飯山	飯山・田町	(縄) 前期中葉土器	(文献) 179 (所蔵) 飯山北高校
121	A-6	城山	飯山・田町	(先) 刀器 (弥) 中期土器 (平) 土師器 (中・近) 城址	(文献) 72、113、 134、155、179、203 (所蔵) 飯山市教委
122	A-2	雨池北	飯山・雨池北7896	(弥) 栗林式、箱清水式 (古) 土師器	(文献) 71、72、113、 179 (所蔵) 飯山北高校
123	旧	飯山シャンツェ下	飯山・深沢	(縄) 土器	
124	旧	直坂	飯山・直坂	(縄) 早期・前期土器	(文献) 71 (所蔵) 飯山市教委
125	A-9	十三ヶ丘	飯山・直坂9757 ・南大沢9940	(縄) 表裏繩文土器、押型文土器、 田戸上層式、有尾式、南 大原式、上原式、下島式、 中期後半土器、石鎌、石槍 磨石斧、剥片石器 (弥) 栗林式 (平) 土師器	(文献) 56、58、60、 71、72、113、119、 155 (所蔵) 飯山市教委 飯山北高校 神田正人 塙崎正博
126	D-16	山岸	木島・山岸	(先) 尖頭器、搔器 (縄) 中期土器	(文献) 65、72、113、 155、164、168、179、 203
127	D-19	吉	木島・吉	(縄) 石鎌、打石斧、石匙、石劍 (弥) 太型船刃石斧、石槌	(文献) 65、72、113 (所蔵)

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵者・備考
128	D-17	安田神社	木島・安田	(先) 細石刃核	(文献) 63、72、155、164、168、179、203、(所蔵) 神田加奈登
129	A-20	法伝寺	静間・法伝寺	(平) 土師器・須恵器	(文献) 72、113、203、(所蔵) 法伝寺
130	A-33	北畠北	静間・北畠	(縄) 中期土器 (古) 土師器	(文献) 148、203、(所蔵) 松沢芳宏 飯山北高校
131	A-12 A-22	北畠	静間・北畠638-1	(弥) 大型船形石斧 (平) 土師器・須恵器	(文献) 72,148、203 (所蔵) 松沢芳宏
132	A-32	静間神社南	静間	(弥) 箱清水式・磨石斧 (平) 土師器・須恵器 (中) 青磁	(文献) 179、203 (所蔵) 松沢芳宏
133	A-16	中町郷谷	静間・郷谷	(古) 五頭式・和泉式・鬼高式 (平) 土師器・須恵器 (中) 珠洲系陶器	(文献) 72、113、203 (所蔵) 飯山北高校 松沢芳宏
134	A-35	京ノ町	静間・中町	(縄) 中期後半土器・打石斧・磨石斧・石錐	(文献) 113、179 (所蔵) 三井芳彦
135	A-13	田草川尻	静間・下伍位野 蓮北原 (昭和47、52、57、 60年発掘調査)	(縄) 前・中期土器・石錐・打石斧・石匙・凹石 (弥) 豊穴住居 栗林式・箱清水式・後期末上器 (古) 豊穴住居・祭祀址 五頭式・和泉式・鬼高式 須恵器・滑石製勾玉・鐵鍔 銛、鷲羽口・鉈 (奈) 須恵器 (平) 土師器	(文献) 72、109、112、113、148、155、179、180、181、191、222、228、237 (所蔵) 飯山市教委 秋津小学校 松沢芳宏 猪瀬 宏 猪瀬清四郎 田中總一郎 丸山信之
136	A-18	山ノ神	静間・法花寺3353	(縄) 集石遺構 後期終末土器・佐野I・II式、晚期魚形線刻面器片、石錐・磨石斧・石錐・石匙 石劍・石錘・耳栓	(文献) 147、148、149、152、155、205、208、219 (所蔵) 飯山市教委

番号	山番号	遺跡名	所 在 地	遺構・遺物	文献・所蔵者・備考
137	A-41	山ノ神B	静間・宮下2463	(繩) 石組造構 山形檐円押型文土器、石鎌、 石槍、凹石、石皿、石錐、 石鍤、石棒、土偶	(文献) 113、148、 155、179、203、 (所蔵) 松沢伸一 松沢芳宏 飯山北高校
138	A-24	田草オヤチ	静間・(田草)	(繩) 押型文土器、絡条体压痕文 土器、前期土器 (平) 土師器、須恵器	(文献) 113、179、 203 (所蔵) 藤沢 高橋桂 松沢芳宏
139	A-31	伍位野	蓮・(上伍位野)	(繩) 打石斧、中期土器 (弥) 栗林式、箱清水式、有孔石 劍 (平) 須恵器	(文献) 113、179、 203 (所蔵) 上原幸夫
140	A-28	荒船	静間・荒船3133	(繩) 前期、中期土器、剝片	(文献) 179、203 (所蔵) 松沢芳宏
141	A-39	道源沢	蓮・道源沢5075	(繩) 打石斧、圓石	(文献) 179、203 (所蔵) 大平三郎
142	A-14	五里久保	蓮・五里久保54 9	(繩) 押型文土器、前器、中器、 後期土器、打石斧、磨石斧 石鎌、凹石、石棒	(文献) 72、93、112、 113、148、179、203 (所蔵) 秋津小学校 飯山北高校 神田正人 松沢芳宏
143	A-38	山根	蓮・向平2855	(繩) 前期、中期後期土器	(文献) 113、117 (所蔵) 飯山北高校 松沢芳宏
144	A-29	駒立	蓮・日向4920	(平) 土師器	(文献) 148、179 (所蔵) 松沢芳宏
145	A-23	茂右工門新 田	蓮・北原4697	(繩) 前期土器	(文献) 113、148、 155、179、203 (所蔵) 松沢芳宏
146	A-15	上組	蓮・上組	(弥) 大型蛤刃石斧	(文献) 72、113、179 (所蔵) 秋津小学校

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
147	A-17	深沢	蓮・深沢	(縄) 窓穴住居 中期上器、石鏃、打石斧、 磨石斧、石匙、石出、四石 礫器、耳栓、土製円盤、土 偶、クルミ炭化物 (昭和38~40年発掘調査)	(文献) 88、90、97、 105、113、118、122、 128、143、148、152 155、179、203、211 (所蔵) 飯山北高校 小山松太郎 松沢芳宏
148	新	狐山	蓮・沓掛	(平) 土師器	(文献) 148、168 (所蔵) 松沢芳宏
149	A-27	堀越 B	蓮・堀越	(平) 土師器	(文献) 148、168 (所蔵) 松沢芳宏
150	A-26	堀越 A	蓮・堀越	(縄) 後期土器 (平) 上師器 (中) 珠洲系陶器	(文献) 148、168 (所蔵) 松沢芳宏
151	新	平山	静岡・平山	(弥) 中期土器	(所蔵) 松沢芳宏
152	A-25	小屋解	静岡・小屋解55	(平) 窓穴住居 3 土師器、須恵器 (昭和52年発掘調査)	(文献) 179、203、 (所蔵) 飯山市教委
153	A-11	清川尻	静岡・町尻1364	(縄) 後期土器	(文献) 56、71、72、 113、179、203 (所蔵) 飯山市教委
154	C-33	馬場1分	照岡・コシハ764 古墳	(古) 円墳 (径28.0、高2.8)	(文献) 10、72、87、 113、155、164、177
155	C-33	馬場2分	照岡・中子8701	(古) 円墳 (径20.0、高2.9)	(文献) 179、203
156		島崎	常郷・島崎	(古) 円墳 (径15.0)	(文献) 72、113、177、 203
157	B-25	照里1分	照里・山林	(古) 円墳 (径18.0、高2.8)	(文献) 10、72、113、 119、179、203
158	*	照里2号	*	(古) 円墳 (径16.7、高2.2)	
159	*	照里3号	*	(古) 円墳 (径 6.0、高1.5)	
160	*	照里4号	*	(古) 円墳	
161	*	照里5号	*	(古) 円墳	
162	*	照里6号	*	(古) 円墳 (径 7.0、高2.0)	
163	*	照里7号	*	(古) 円墳	
164	*	照里8号	*	(古) 円形周溝	(文献) 117、179、203

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
165	B-18	茶臼山1号	常盤・大塚	(古) 円墳 (径42.5、高5.5)	(文献) 10、22、27、
166	夕	茶臼山2号	夕	(古) 円墳 (径18.0、高2.0)	35、39、72、113、119、
167	夕	茶臼山3号	夕	(古) 円墳 (径 6.0、高5.5)	164、175、203
168	夕	大塚1号	夕	(古) 円墳	(文献) 10、119、179、
169	夕	大塚2号	夕	(古) 円墳	203
170	夕	大塚3号	夕	(古) 円墳	
171	夕	大塚4号	夕	(古) 円墳	
172	夕	大塚5号墳	夕	(古) 円墳	
173	夕	大塚6号	夕	(古) 円墳	
174	夕	大塚7号	夕	(古) 円墳	
175	夕	大塚8号	夕	(古) 円墳	
176	夕	大塚9号	夕	(古) 円墳	
177	夕	大塚10号	夕	(古) 円墳	
178	夕	大塚11号	夕	(古) 円墳	
179	夕	大塚12号	夕	(古) 円墳	
180	夕	大塚13号	夕	(古) 円墳	
181	夕	大塚14号	夕	(古) 円墳 骨片?	
182	新	向峰1号	瑞穂・向峰	(古) 円墳 (径10.0、高0.8)	(文献) 225
183	夕	向峰2号	夕	(古) 円墳 (径 8.0、高1.0)	
184	夕	向峰3号	夕	(古) 円墳 (径15.0、高2.0)	
185	夕	向峰4号	夕	(古) 円墳 (径 6.0)	
186	夕	向峰5号	夕	(古) 円墳	
187	夕	向峰6号	夕	(古) 円墳?	
188	D-1	飯綱堂 (狐塚)	瑞穂、飯綱堂2971	(古) 石室露呈 石室露呈 現長6m、巾2m	(文献) 12、34、72、 113、177、179、203 (所蔵) 森山園主
189	新	神戸1号	瑞穂・神戸	(古) 横穴式石室露呈	(文献) 195
190	夕	神戸2号	夕	(古) 横穴式石室露呈	
191	新	大池1号	大池	(古) 円墳 (径21.0、高3.0)	(文献) 195
192	夕	大池2号	夕	(古) 円墳 (径15.0、高2.0)	
193	A-46	有尾1号	飯山・有尾	(古) 前方後方墳 (全長35、後方 径22、高4.0、前方部幅12.5、高 2.0)	(文献) 10、71、72、 113、155、179、195、 203、225
194	夕	有尾2号	夕	(古) 円墳 (径19.6、高3.4)	

番号	旧番号	遺跡名	所在地	遺構・遺物	文献・所蔵・備考
195	A-46	有尾3号墳	飯山・有尾	(古) 円墳	
196	A-34	神明町1号	飯山・町の浦3231	(古) 円墳 (一説に前方後円墳)	(文献) 59、171、236
197	✿	神明町2号	✿	(古) 円墳 (一説に前方後円墳)	
198	✿	神明町3号	✿	(古) 方墳 (長17.0、高1.5)	
199	✿	神明町4号	✿	(古) 円墳 (径2.0、高2.0)	
200	✿	(大池軒塚)	✿	(中) 銅板経(昭和25年発掘調査)	(所蔵) 飯山北高校
201	A-21	法伝寺1号	静間・金山	(古) 方墳 (径26.0、高4.0)	(文献) 10、71、72、
202	✿	法伝寺2号	✿ 松尾	(古) 円墳 鉄劍	113、155、164、171、
203	✿	法伝寺3号	✿	(古) 円墳 (径12.0、高0.8)	175、190、197
204	A-42	勘助山古墳	静間・勘助山2830 (旧勘介山)	(古) 前方後方墳 (長35、後方部 径20×22、高3、前方部幅12.5、 長さ15、高1.5)	(文献) 179、195、 223、225
205	新	法花寺1号	静間・法花寺	(古) 円墳 (径15.0、高2.5)	(文献) 225
206	✿	法花寺2号	✿	(古) 円墳 (径9.0、高0.5)	
207	✿	法花寺3号	✿	(古) 円墳 (径12.0、高2.2所)	
208	✿	法花寺4号	✿	(古) 円墳 (径13.0、高2.0)	
209	✿	法花寺5号	✿	(古) 円墳 (径10.0、高0.5)	
210	✿	法花寺6号	✿	(古) 円墳 (径10.0、高1.5)	
211	✿	舟山	静間・荒船	(古) 円墳	(文献) 225
212	A-30	五里久保1号	蓮・五里久保	(古) 円墳 (径25.0、高1.2)	(文献) 72、148、179
213	✿	五里久保2号	〃	(古) 円墳 (径16.0、高1.2)	225、203
214	✿	五里久保3号	〃	(古) 円墳 (径9.0、高1.0)	
215	✿	五里久保4号	〃	(古) 円墳 (径6.0、高0.5)	
216	✿	五里久保5号	〃	(古) 円墳 (径8.0、高0.5)	
217	✿	五里久保6号	〃	(古) 円墳 (径15.0、高1.0)	
218	✿	五里久保7号	〃	(古) 円墳 (径12.0、高1.0)	
219	✿	五里久保8号	〃	(古) 円墳 (径10.0、高1.2)	
220 + 249	D-17	其緒古墳群	其緒・西沢	(古) 円墳30基 塚の可能性あり	(文献) 72、113、179
250 + 273	D-47	飯綱山古墳群	木島・長峰	(古) 円墳24基 塚の可能性あり	(文献) 72、113、179

中世城館址

番号	名 称	所 在 地	立地	現 態	構 造 m	存続期間(推定)	備 考
274	大 滝 城	照岡・オオハザマ	山頂	山林	単 郭	～安土桃山	
275	温 井 城	一山・向山	山頂	山林	連 郭		
276	上 境 城	・山・城山	山頂	山林	連 郭	～戦 国	
277	北 柔 城	豊田・城山					宝鏡印塔、五輪塔、骨壺
278	今 井 館	常郷・下今井	台地	耕作地	単 郭 44×41	鎌倉～	五輪坂に大五輪塔
279	小 境 城	豊田・城山	山頂	山林	連 郭		
280	顔 戸 館	寿・たてのうち	台地	耕作地	単 郭		
281	尾 峠 館	寿・五反田	平地	耕作地			水田化により消滅
282	黒 岩 城	寿・黒岩	山頂	山林	単 郭	～戦 国	
283	中 屋 城	中曾根・中小屋	山頂	山林	連 郭		
284	中 条 城	縁・中条	丘陵	山林			五輪塔
285	中 柔 館	縁・的場	台地	耕作地	複 郭	～安土桃山	
286	馬 の 峯 城	縁	山頂	山林			宝鏡印塔、五輪塔
287	山 口 城	旭・城平	山頂	山林	複 郭	～安土桃山	
288	小 佐 原 城	小佐原・城塙	台地	耕作地	単 郭	～戦 国	闇壁により削滅
289	大 川 汝 端 城	旭・大川	台地	耕作地	連 郭		
290	大 川 白 菖 城	旭・日陰	山頂	山林	連 郭 36×25		
291	富 倉 城	富倉・城くら	山頂	山林	連 郭 46×29		遠見城
292	富 倉 下 の 城	富倉・金山	山頂	山林	連 郭 29×10		
293	大 倉 崎 館	常盤・大倉崎	段丘	山林	単 郭 81×81		
294	犬 飼 館	瑞穂・城之腰	丘陵	耕作地	90×90	鎌倉～戦国	
295	犬 飼 山 城	瑞穂・城之峰	山頂	山林	連 郭	～戦 国	
296	柏 尾 館	瑞穂豐・山口	山麓	耕作地	連 郭 90×80	～戦 国	
297	北 原 館 址	瑞穂豊・北原	山麓	宅地	不明		
298	饭 山 城	饭山・田町	丘陵	公園	連 郭 290×170		
299	後 谷 城	饭山・城腰	尾根	山林 神社	連 郭 200×50	奈良沢城	
300	とんぼ 城	静間・鳶ヶ沢	山頂	山林	連 郭 150×100	上倉城	

番号	名 称	所 在 地	立地	現 態	構 造	存続期間(推定)	備 考
301	坪根城	飯山・坪根	山頂	山林	連 郭400×400		
302	北畠館	静間・松尾	段丘	耕作地	連 郭100×100		
303	静間館	静間・中町	段丘	神社	単 郭 75×75		
304	田草城	静間・田草 背負田	山頂	山林	連 郭900×300	南北朝～戦国	
305	小田草城	静間・棚 小田草	尾根	耕作地	連 郭500×100	～戦国	
306	蓮 城	蓮・城山	山頂	山林	複 郭	～戦国	
307	駒立館	蓮・立道	段丘	耕作地 原野	複 郭 50×50	～戦国	
308	岩井城		山頂	山林		室町～戦国	中野市との境界 上に有
309	神戸城	瑞穂・神戸	山頂	山林			



遺跡地図№12

田草川尻遺跡を中心とした秋津平担地(千曲川右岸)は、飯山地方における弥生文化の一中心地である。

第 4 編

文 献 目 錄



遺跡地図No.10付近

千曲河岸の瑞穂・関沢および常盤・上野地区は、先土器遺跡の宝庫である。上野・日焼・太子林・関沢等の遺跡が密集する。

- 1 宮沢甚一郎 北信地方の石器時代遺跡 人類学雑誌12-128 1896. 11
- 2 玉置 紫雄 信濃旅行記 人類学雑誌19-214 1904
- 3 神津 猛(他) 石器時代古墳時代遺物発見地名表 人類学雑誌19-218 1904
- 4 新発見の石器時代遺跡 東京人類学雑誌24-277 1909
- 5 栗巣 英治 飯山城考 下水内教育会 1913
- 6 下高井郡役所 下高井郡誌 1922. 11
- 7 中谷治字二郎 東大人類学倉庫跡より発見され 2ヶの石器について 人類学雑誌39-7、8、9
1924. 11
- 8 岩崎 長思 王子塚古墳 長野県史蹟調査報告3 1925
- 9 岩崎 長思 金鏡山古墳 長野県史蹟調査報告5 1926
- 10 下水内郡教育会 水木内郡誌 1927. 2 下
- 11 杉山齊栄男 日本原始工芸 1928
- 12 岩崎 長思 和栗古墳 長野県史蹟調査報告9 1928
- 13 八幡 一郎 扇平片刀石斧 信濃考古学会誌2-4 1930. 9
- 14 酒 古 生 市川文書の郷土史的研究 信濃(1) 1-8 1932
- 15 森本 六爾 地名表よりみた信濃地方の覚書 信濃(1) 1-10 1932
- 16 酒 古 生 下高井第四地区跡査 信濃(1) 1-10 1932
- 17 下高井郡中部職員会 柳原村踏査旅行教則 信濃(1) 1-10 1932
- 18 八幡 一郎 弥生式石器の新資料1・2 信濃(1) 1-12 1932
- 19 八幡 一郎 有孔石剣の資料 考古学雑誌23-1 1933 新
- 20 八幡 一郎 石刀の分布 雜報 人類学雑誌48-4 1933
- 21 藤森栄一 山国夏信 考古学4-6 1933
- 22 江口 普次 桑畠より土器出土 信濃(1) 2-7 1933
- 23 神田 五六 下高井の石器時代 I・II・III 信濃(1) 2-11 3-2・9 1933・1934
- 24 藤森 栄一 信濃國下水内郡鳴沢頭の土器及石器 史前学雑誌6-6 1934. 11
- 25 藤森 栄一 東日本海系石器文化の輪廓 考古学6-10 1935
- 26 藤森 栄一 信濃の弥生式土器と弥生式石器 考古学7-7 1936
- 27 神田 五六 善光寺平の弥生式文化について 長野県国民文化講習所所報3 1937
- 28 藤森 栄一 千曲川下流長峰、高丘の弥生式石器 考古学8-8 1937
- 29 石包丁の発見地 統 信濃の部 中部考古会彙報2-3 1937
- 30 北条 勝作 岡山郷土資料 1939
- 31 北条 勝作 下水内郡北部石器時代分布私見 1939. 8
- 32 下高井郡郷土調査部 下高井郡の先史時代・原始時代概観 1939. 8
- 33 中部組合職員会 下水内郡史料写真帖 1939. 10
- 34 瑞穂村役場 瑞穂村誌 1941. 12
- 35 神田 五六 信濃水高地方の玉類 信濃(II) 5 1942
- 36 藤森 栄一 信濃下水内郡桑名川の土器 人類学雑誌 1944

- 37 斎藤 忠 屋根型大井を有する石室墳について 考古学雑誌34-3 1944
- 38 神田 五六 水高地方の古墳 信濃(Ⅱ) 22-2 1947
- 39 宮坂 英式 奥信濃原始文化の概観 信濃(Ⅲ) 1-2 1949
- 40 八幡 一郎 石器二題 人文学会報5 1949
- 41 田中 清見 飯山地方先住民族の遺跡 北信学生考古研究会誌I 1949
- 42 小田切 茂 古代の桑名川 北信学生考古研究会誌I 1949
- 43 森山 茂夫 古代下水内郡中部の概観 北信学生考古研究会誌I 1949
- 44 清水 享 発掘よりみたる古代の常盤村 北信考古学会報告1 1950
- 45 田川 幸生 考古学よりみたる秋山 北信考古学会報告1 1950
- 46 神田 五六 東日本に於ける弥生式文化の研究 信濃(Ⅲ) 2-7 1950
- 47 田中 清見 飯山市有尾遺跡発掘概報 下水内郡遺跡発掘調査報告書 1950
- 48 清水 享・森山茂夫 下水内郡常盤村大倉崎瀬附跡 下水内郡遺跡発掘調査報告書 1950
- 49 小田切 茂 下水内郡岡山村東原遺跡調査報告書 下水内郡遺跡発掘調査報告書 1950
- 50 森山 茂夫 下水内郡太田村小境押出遺跡調査報告書 下水内郡遺跡発掘調査報告書 1950
- 51 森山 茂夫 外様村尾崎東長峰発掘調査報告(一) 下水内郡遺跡発掘調査報告書 1950
- 52 清水 享 外様村尾崎東長峰発掘調査報告(二) 下水内郡遺跡調査報告書 1950
- 53 江口 善次 塙村古代文化調査感想文集 1950
- 54 森山茂夫 外様村尾崎長峰遺跡第7号住居址 水内会々報3 1951
- 55 東 道雄・清水 享・森山茂夫・寺崎昭夫 下水内郡外様村東長峰遺跡3・4・5・6・7号住居址
下水内郡遺跡調査報告2 1951
- 56 森山 茂夫 下水内郡に於ける地名表並に遺物表 古代文化1 1951
- 57 江口 善次 二つの土器 信濃3-4 1951
- 58 飯山北高郷土研究会 飯山平及びその附近に於ける先史文化と地形との関係についての研究 1951
- 59 横田 通 天池経塚発掘報告 下水内郡遺跡発掘調査報告2 1951
- 60 神田 五六 繩文諸磧期に於ける低地性集落と高地性集落 信濃4-9 1952
- 61 小澤 淳美 飯山町有尾遺跡発掘報告 飯山北高郷土研究会々報 1952
- 62 小澤 淳美 下水内郡外様村戸頭遺跡調査報告 飯山北高郷土研究会々報 1952
- 63 飯山北高郷土研究会 下水内郡瀬戸・尾崎遺跡発掘調査報告及び感想文集 1952
- 64 神田 五六 長野県下水内郡飯山町有尾遺跡調査概報 信濃5-8 1953
- 65 長野県教育委員会 下高井 長野県埋蔵文化財発掘調査報告1 1953
- 66 飯沢 澄男 長峰第12号住居埋蔵文化財発見届出書 1954
- 67 宮坂 英式 長野県下水内郡東原遺跡 日本考古学年報2 1954
- 68 太田村誌刊行会 太田村誌 1954. 6
- 69 宮坂 英式 長野県下水内郡長峰遺跡 日本考古学年報3 1955
- 70 桐原 健 長峰尾崎遺跡の重要性 若木考古38・39合 1955
- 71 飯山公民館 飯山町誌 1954
- 72 信濃史料刊行会 信濃史料 第1巻上下 1956

- 73 桐原 健 信濃の後期弥生式土器 上代文化26 1956
- 74 桐原 健 箱清水式土器における赤色塗彩の傾向とその意義 信濃8-11
- 75 神田五六・永峯光一 長野県下水内郡横倉発見のポイント 日本考古学年報20回発表要旨 1957
- 76 永峯 光一 長野県下水内郡小坂遺跡 日本考古学年報10 1957
- 77 桐原 健 信濃における石包丁について 信濃9-8 1957
- 78 桶口昇昇・中部山岳地帯における前期绳文時代住居址 信濃9-11 1957
- 79 桐原 健 北信濃長峰丘陵柳町遺跡調査報告 信濃9-12 1957
- 80 桶口 昇・(他) 上原 1957. 12
- 81 飯市公民館外様支館 外様村史 1957. 12
- 82 神田 五六・永峯光一 奥信濃横倉遺跡 石器時代5 1958
- 83 宮沢 桂 北信濃川久保出土の墨書き土師器 信濃10-12 1958
- 84 桐原 健 北信長峰丘陵における弥生式遺跡 考古学雑誌45-1 1959
- 85 栄村誌水内編集委員会 栄村誌 水内編 1960
- 86 飯山高校考古学クラブ 長野県飯山市有尾遺跡調査報告 信濃13-12 1961
- 87 飯市公民館岡山支館 岡山村誌 1961
- 88 飯山北高校地歴部 飯山市深沢ヨクランボ遺跡略報 1962
- 89 高橋 桂 北信濃小坂遺跡の調査 考古学雑誌48-3 1962
- 90 高橋 桂 北信ヨクランボ出土の土偶 長野県考古学会連絡紙2 1962. 10
- 91 高橋 桂 飯山市照丘遺跡出土の弥生式遺物について 信濃14-11 1962. 11
- 92 山内 清男 繩文土器の古き 科学読売12-13 1962-12
- 93 高橋 桂 北信月夜岳遺跡調査略報 信濃15-3 1963
- 94 桐原 健 信濃出土の磨製石剣について 信濃15-4 1963
- 95 飯山高校考古班 飯山市有尾黄金石上遺跡調査略報 1963
- 96 桐原 健 栗林式土器の再検討 考古学雑誌49-3 1963
- 97 高橋 桂 北信だより 長野県考古学会連絡紙12 1964
- 98 栄村誌編集委員会 栄村誌 塙編 信濃に転載16-7 1964 (神田五六)
- 99 中村孝三郎 中部地北部の先土器時代 日本の考古学1 1965
- 100 永峯 光一・繩文文化の発展と地域性―中部― 日本の考古学II 1962
- 101 坂詰 秀一 下高井郡野沢温泉の二遺跡 信濃考古15 1965
- 102 桐原 健 飯山須多ヶ峯遺跡見学記 信濃考古51-3 1966
- 103 桐原 健 最近における長野県考古学会の成果―北信須多ヶ峯遺跡の紹介― 長野10 1966
- 104 高橋 桂 北信須多ヶ峯弥生式墓塚調査略報 考古学雑誌51-3 1966
- 105 飯山北高校地歴部 深沢遺跡 1966
- 106 秋津村誌編集委員会 秋津村誌 1966
- 107 高橋 桂 須多ヶ峯弥生式墓塚発見の鉄錆再現 考古学雑誌52-3 1967
- 108 木村幾太郎 長野県小坂遺跡出土の尖頭器 若木考古84 1967
- 109 松沢 芳宏 飯山市田草川尻遺跡の古式土器器 信濃考古22 1967

- 110 桐原 健（他） 安源寺 1967
- 111 永峯 光一（他） 佐野 1967
- 112 長野県教育委員会 新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書 1967
- 113 文化財保護委員会 全国遺跡地図「長野県」 1967
- 114 桐原 健 信州における古式土師器の位置 信濃19-8 1967
- 115 森島 稔 梅子柴型石斧をめぐっての試論 信濃19-8 1967
- 116 桐原 健 平安期にみられる山地居住人の遺跡 信濃20-4 1968
- 117 高橋 桂 長野県坂山市照里環状周溝遺跡調査報告 信濃20-4 1968
- 118 藤森栄・・桐原 健 信濃考古学散歩 1968
- 119 常盤村史刊行委員会 村史 ときわ 1968
- 120 日本考古学協会 弥生式土器集成 1968
- 121 シンポジウム 弥生文化の東漸とその発展 長野県考古学会誌5 1968
- 122 松沢 芳宏 繩文中期における種の石器 長野県考古学会誌7 1969
- 123 高橋 桂 北信濃城端遺跡調査報告 信濃21-7 1969
- 124 藤沢宗平・鍾口昇一 有明山社 1969
- 125 桐原 健 信濃の磨製石鎌—その具有する問題点の1、2について 信濃21-10 1969
- 126 飯山北高校地歴部 別府原遺跡 いにしえ3 1970
- 127 飯山北高校地歴部 沖造跡 いにしえ3 1970
- 128 サントリー美術館 土偶と土画 1970
- 129 長野県教育委員会 農業振興地域等開発地域埋蔵文化財緊急分布調査報告 1970
- 130 柳原村誌編纂委員会 柳原村誌 1970
- 131 木島平村教育委員会（金井喜久一郎） 木島の古代文化 1970
- 132 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村七ヶ巻遺跡 日本考古学年報18 1970
- 133 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村豊郷遺跡 日本考古学年報18 1970
- 134 宮崎 博 飯山城址発見の中継弥生式土器 長野県考古学会誌9 1970
- 135 斎藤 二六 岡山現地講座資料 飯山市公民館岡山分館 1970
- 136 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村虫生遺跡 日本考古学年報19 1971
- 137 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村前坂遺跡 日本考古学年報19 1971
- 138 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村東大滝遺跡 日本考古学年報19 1971
- 139 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村東大滝遺跡 日本考古学年報19 1971
- 140 坂詰 秀一 長野県野沢温泉村平林遺跡 日本考古学年報19 1971
- 141 桐原 健 北信濃の後期弥生式土器 一志茂樹博士喜寿論文集 1971
- 142 長野県教育委員会 農業振興等開発地域埋蔵文化財緊急分布調査報告書 1971
- 143 長野県教育委員会 長野県埋蔵文化財発掘調査要覧 1 1971
- 144 小林 透雄 先撰文主要遺跡要覧 新版考古学講座11 1972
- 145 高橋 桂 中期弥生式住居址の一例 高井22 1972
- 146 川上 元 尖頭器をめぐる編年の覚書 信濃24-9 1972

- 147 高橋 桂 魚形線刻画のある土器片 信濃24-11 1972
- 148 高橋 桂・松沢芳宏 飯山市田草川尻遺跡緊急発掘調査報告書 1972
- 149 太田小学校統合50周年記念実行委員会 太田の歴史 1973
- 150 小林 康男 繩文時代生産活動の在り方(2) 信濃25-10 1973
- 151 長野県教育委員会 長野県埋蔵文化財発掘調査要覧 2 1973
- 152 安孫子昭二他 八王子西野遺跡 1974
- 153 高橋 桂 山ノ神遺跡 日本考古学年報25 1974
- 154 高橋 桂 別府原遺跡 日本考古学年報25 1974
- 154 日本民俗資料館 信濃の弥生文化展 1974
- 155 飯山市市制施行二十周年記念事業実行委員会 飯山の歴史と自然 1974
- 156 木島村村誌発行委員会(高橋 桂) 木島村史 1974
- 157 江坂輝・野口義磨 土偶芸術と信仰 古代史発掘3 1974
- 158 鈴木 保彦 本州地方を中心とした先土器時代終末から繩文草創期における石器群の様相
物質文化23 1974
- 159 塚田正明・桐原 健 長野県の歴史 1974
- 160 野沢温泉村史編纂委員会(坂詰秀一) 野沢温泉村史 1974
- 161 坂詰 秀一 岡ノ峰遺跡と村内の古代遺跡 1975
- 162 闇 孝・佐野式土器文化について 高井31 1975
- 163 橋本 正 石器の機能と技術 日本の旧石器文化1 1975
- 164 弓削 春穂 飯山ものがたり 1976
- 165 鈴木道之助 ポイントの発達とその意義 研究紀要1 1976
- 166 高橋桂・中島庄一・金井正一 北信濃大倉峰遺跡発掘調査報告 信濃28-4 1976
- 167 小林 幹雄・児玉卓文 岡峰遺跡 1976
- 168 高橋 桂(他) 栄村小坂遺跡緊急発掘調査報告書 1976
- 169 白石 浩之 東日本におけるナイフ形石器変遷の素描 神奈川考古1 1976
- 170 永峯 光・佐野遺跡について 高井36 1976
- 171 松沢 芳宏 船立貝式古墳の一例 高井36 1976
- 172 松沢 芳宏 秋津城址 青年の友所有 1976
- 173 渡辺 宜經(他) シンボジウム 旧石器時代の考古学 1977
- 174 笹沢 浩 弥生土器一中部・中部高地1~3-1 考古学ジャーナル131、133、134 1977
- 175 高橋 桂・太田文雄 北信須多ヶ峯遺跡第二次発掘調査報告 信濃29-4 1977
- 176 宮坂 光昭 信濃における周溝墓と古式古墳 信濃29-4 1977
- 177 高橋 桂 考古学上よりみたる栄村 高井39 1977
- 178 横原 健 飯山市加越跡調査報告 1976
- 179 飯山北高地歴部OB会 遺跡分布調査報告Ⅰ 1977
- 180 飯山市 大型の住居址も一田草川尻遺跡発掘 市報いいやま217 1977
- 181 飯山市教育委員会 田草川尻遺跡Ⅱ 1978

- 182 飯山照丘高等学校
- 183 飯山市 平安中期製鉄炉群を発掘 市報いいやま230 1978
- 184 金井 正三 繩文前期の特殊浅鉢土器 信濃31-4 1979
- 185 高橋 桂 石棺状遺構出土 飯山市公民館報279 1979
- 186 飯山市公民館 (日本最大一本製漆櫛出土 飯山市公民館報281 1979
- 187 飯山市教育委員会 北原遺跡 (写真集) 1979
- 188 高橋 桂 繩文後期の集団墓地があった一奥信濃・宮中遺跡の発掘調査から一 日本の屋根10 1979
- 189 高橋 桂 飯山市瑞穂宮中遺跡出土の石棺状遺構 信濃考古56 1979
- 190 飯山照丘高校 (光明寺前遺跡発掘調査報告書) 1980
- 191 太田 文雄 北信濃の弥生後期編年について 信濃32-4 1980
- 192 望月 静雄 飯山市北竜湖採集の片刃石斧 高井51 1980
- 193 飯山市教育委員会 北原遺跡調査報告書 1980
- 194 飯山市教育委員会 銀治出 1980
- 195 松沢 芳宏 北信濃北半における前方後円墳の発見とその意義 高井52 1980
- 196 飯山市 めずらしい石器出土一瑞穂太子林遺跡 市報いいやま257 1980
- 197 高橋 桂 宮中遺跡発掘調査一石棺状遺構を中心として 高井53 1980
- 198 飯山市教育委員会 南原遺跡 コピー 1980
- 199 新編瑞穂村誌刊行会 新編瑞穂村誌 1980
- 200 長野県考古学会 長野県埋蔵文化財白書 1981
- 201 飯山市教育委員会 北原遺跡Ⅲ 1981
- 202 飯山市教育委員会 太子林・闇沢遺跡 1981
- 203 長野県 長野県史考古資料編全1巻(1)遺跡地名表 長野県史刊行会 1981
- 204 広瀬 昭弘 北信濃小佐原遺跡出土の表裏繩文土器について 信濃33-4 1981
- 205 大原正義 北信濃山ノ神遺跡出土の土器について 信濃33-4
- 206 桐原 健 繩文時代における千曲川漁撈について 高井54 1981
- 207 長野県考古学会 宮中遺跡一遺跡と遺物所有 信濃毎日新聞社 1982
- 208 長野県考古学会 山ノ神遺跡一遺跡と遺物所有 信濃毎日新聞社 1982
- 209 長野県考古学会 旭町遺跡群一遺跡と遺物所有 信濃毎日新聞社 1982
- 210 金井 正三 繩文前期に尾式七器の再検討 信濃34-4
- 211 早津賢二・小島正巳 妙高火山群テフラ地域におけるテフロクロノジーと先史考古学
中部高地の考古学Ⅱ 1982
- 212 望月静雄 太子林遺跡・闇沢遺跡一長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡 北・東信 所有
長野県史刊行会 1982
- 213 広瀬 昭弘 小佐原遺跡一長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡 北・東信 所有
長野県史刊行会 1982
- 214 望月 静雄 北信濃闇沢遺跡の石器群 信濃34-4 1982
- 215 中島 庄一 北信地域における尖頭器を伴出した石器群について 信濃34-4 1982

- 216 金井 正三 有尾遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 217 西沢 隆治 深沢遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 218 高橋 桂 宮中遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 219 大原 正義 山ノ神遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 220 桐原 健 東長峯遺跡、柳町遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有
長野県史刊行会 1982
- 221 高橋 桂 須多ヶ峯遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有
長野県史刊行会 1982
- 222 高橋 桂 田草川尻遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 223 松沢 芳宏 有尾古墳群・勘介山古墳—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有
長野県史刊行会 1982
- 224 高橋 桂 北原遺跡—長野県史考古資料編全1巻(2)主要遺跡「北・東信」所有 長野県史刊行会 1982
- 225 松沢 芳宏 飯山・中野地方の前半期古墳文化と提起する諸問題 信濃35-3 1983
- 226 松沢 芳宏 水内郡賤間郷田草村をめぐる古城址とその史的背景 長野110号 1983
- 227 小津賢二・新井房夫・小島正巳・望月静雄 信濃川流域における先土器時代包含層と小標テフラとの層位関係) 信濃35-10 1983
- 228 飯山市教育委員会 田草川尻遺跡Ⅲ 1984
- 229 飯山市教育委員会 北町遺跡 1984
- 230 望月 静雄 飯山市長者清水遺跡 長野県埋蔵文化財ニュース11 1984
- 231 飯山市教育委員会 長者清水・水の沢遺跡 1985
- 232 飯山市教育委員会 北原遺跡Ⅳ 1985
- 233 桐原 健 中世信濃における火窯のあり方—珠洲陶器・清陶の対比から一 高井71 1985
- 234 飯山市教育委員会 田草川尻遺跡Ⅳ 1986
- 235 望月 静雄 飯山地方における新発見の先土器時代遺跡および資料 高井74 1986
- 236 桐原 長則 古墳に楽造された経塚二例 高井74号 1986
- 237 飯山市教育委員会 田草川尻遺跡IV 1986

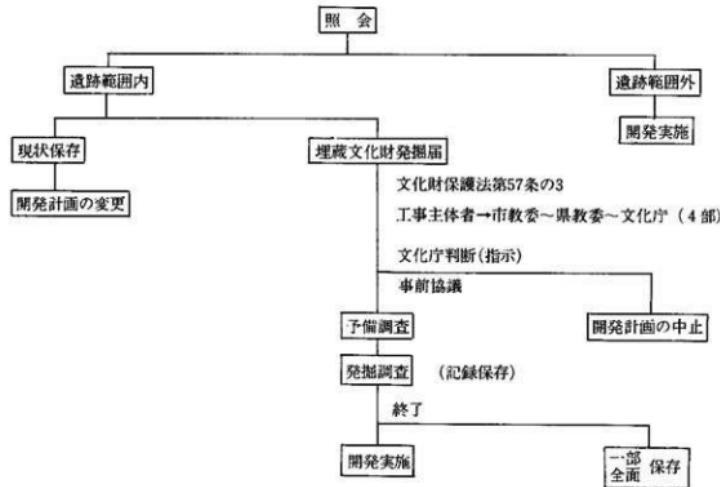
付編 遺跡の保護について

私たちの祖先が残した物（たとえば土器・石器等）を遺物と呼び、彼等が生活した痕跡（たとえば家の跡等）を遺構と呼んでいます。そして、それらが出土した場所を「遺跡」と呼称しています。遺跡名にはその土地の字名からつけるのが一般的で、たとえば旭南条に建設中の市立泉台小学校付近に存在する遺跡は、地字名の北原をとり「北原遺跡」と呼んでいます。

1960年代後半に始まった高度経済成長政策に伴う開発の波は全国規模に及び、多くの遺跡が宅地化され、道路となりました。やがて、文化的充実と自然や文化財との調和が図られ、開発に先立つ記録保存のための発掘調査が一般的に行われるようになりました。飯山市においても昭和40年の須多峯遺跡がこうした行政発掘の最初で、以後次々に発掘調査が行われるようになりました。しかし、残念なことに開発の早さや遺跡分布の周知徹底にやや欠けていたこともあります。これらすべての遺跡について事前の調査がなされたわけではありません。

飯山市には概に掲げたとおり約370ヶ所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が確認されています。これらの遺跡は文化財保護法では「周知の埋蔵文化財包蔵地」（周知の遺跡）と呼んで保存・保護することにしています。詳細な規則等については次項に記しておりますが、遺跡地および周辺の開発行為に対しては次のような手続きを定めています。

開発行為



第四章 埋蔵文化財の抜粋

(調査のための発掘に関する届出、指示及び命令)

第五十七条

土地に埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部省令の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の三十日前までに文化庁長官に届け出なければならない。ただし、文部省令の定める場合は、この限りでない。

- 2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、文化庁長官は、前項の届出に係る発掘に關し必要な事項及び報告書の提出を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

(土木工事等のための発掘に関する届出及び指示)

第五十七条の二

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という）を発掘しようとする場合には、前条第一項の規定を準用する。この場合ひおいて、同項中「三十日前」とあるのは「六十日前」と読み替えるものとする。 に

- 2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、文化庁長官は、前項で準用する前条第一項の届出に係る発掘に關し必要な事項を指示することができる。

(国の機関等が行う発掘に関する特例)

第五十七条の三

国の機関、地方公共団体又は国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令の定めるもの（以下この条及び第五十七条の六〔国の機関等の遺跡の発見に関する特例〕において「国の機関等」と総称する）が、前条第一項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に當て、あらかじめ、文化庁長官にその行を通知しなければならない。

- 2 文化庁長官は、前項の通知を受けた場合において、埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、当該国の機関等に対し、当該事業計画の策定及びその実施について協議を求めるべき旨の通知をすることができる。

- 3 前項の通知を受けた国の機関等は、当該事業計画の策定及びその実施について、文化庁長官に協議しなければならない。

- 4 文化庁長官は、前二項の場合を除き、第一項の通知があった場合において、当該通知に係る事業計画の実施に關し、埋蔵文化財の保護上必要な勧告をすることができる。

- 5 前四項の場合において、当該国の機関等が各省各庁の長（国有財産法（昭和二十三年法律第七十三号）第四条第一項〔国有財産の所管換えの意義〕に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ）であるときは、これらの規定に規定する通知・協議又は勧告は、文部大臣を通じて行うものとする。

(埋蔵文化財包蔵地の周知)

第五十七条の四

国及び地方公共団体は、周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整理その他その周辺の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

- 2 國は、地方公共団体が行う前項の措置に關し、指導、助言その他の必要と認められる援助をすることができる

る。

(遺跡の発見に関する届出、停止命令等)

第五十四条の五

- 土地の所有者又は占有者が出土品の出土等により見つかり、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、第五十七条第一項【調査のための発掘に関する届出】の規定による調査に当たって発見した場合を除き、その現状を変更することなく、遅滞なく、文部省令の定める事項を記載した書面をもって、その旨を文化庁長官に届け出なければならない。ただし、非常災害のために必要な応急措置を執る場合は、その限度において、その現状を変更することを妨げない。
- 2 文化庁長官は、前項の届出があった場合において、当該届出に係る遺跡が重要なものであり、かつ、その保護のため調査を行う必要があると認めるときは、その土地の所有者又は占有者に対し、期間及び区域を定めてその現状を変更することとなるような行為の停止又は禁止を命ぜることができる。ただし、その期間は、三箇月を超えることができない。
- 3 文化庁長官は、前項の命令をしようとするときは、あらかじめ、関係地方公共団体の意見を聽かなければならぬ。

- 4 第二項の命令は、第一項の届出があった日から起算して一箇月以内にしなければならない。
- 5 第二項の場合において、同項の期間内に調査が完了せず、引き続き調査を行う必要があるときは、文化庁長官は、一回に限り、当該命令に係る区域の全部又は一部について、その期間を延長することができる。ただし当該命令の期間が、同項の期間と通算して六箇月を超えることにならぬ。
- 6 第二項及び前項の期間を計算する場合においては、第一項の届出があった日から起算して第二項の命令を発した日までの期間が含まれるものとする。
- 7 文化庁長官は、第一項の届出がなされなかった場合においても、第二項及び第五項に規定する措置を執ることができる。
- 8 文化庁長官は、第二項の措置を執った場合を除き、第一項の届出がなされた場合には、当該遺跡の保護上必要な指示をすることができる。前項の規定により第二項の措置を執った場合を除き、第一項の届出がなされなかつたときも、同様とする。
- 9 第二項の命令によって損失を受けた者に対しては、国は、その通常生ずべき損失を補償する。
- 10 前項の場合には、第四十一条第二項から第四項【損失補償額の決定、補償額の増額請求の訴え、訴えにおける國の被告】までの規定を準用する。

(国の機関等の遺跡の発見に関する特例)

第五十七条の六

- 国の機関等が前条第一項に規定する発見をしたときは、同条の規定を適用しないものとし、第五十七条第一項【調査のための発掘に関する届出】又は第九十八条の二第一項【調査のための発掘の施行】の規定による調査に当たって発見した場合を除き、その現状を変更することなく、遅滞なく、その旨を文化庁長官に通知しなければならない。ただし、非常災害のために必要な応急措置を執る場合は、その限度において、その現状を変更することを妨げない。
- 2 文化庁長官は、前項の通知を受けた場合において、当該通知に係る遺跡が重要なものであり、かつ、その保護のため調査を行う必要があると認める時は、当該国の機関等に対し、その調査、保存等について協議を求め

るべき旨の通知をることができる。

- 3 前項の通知を受けた国の機関等は、文化庁長官に協議しなければならない。
- 4 文化庁長官は、前二項の場合を除き、第一項の通知があった場合において、当該遺跡の保護上必要な勧告をすることができる。
- 5 前四項の場合には、第五十一条の二第五項〔発掘に関する通知、協議又は勧告〕の規定を準用する。
(文化庁長官による発掘の施行)

第五十八条

文化庁長官は、歴史上又は学術上の価値が特に高く、かつ、その調査が技術的に困難なため國において調査する必要があると認められる埋蔵文化財については、その調査のため土地の発掘を実行することができる。

- 2 前項の規定により発掘を実行しようとするときは、文化庁長官は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。
- 3 第一項の場合には、第三十九条〔文化庁長官による国宝の修理等の実行の責任者、管理等の拒否等の禁止〕(同条第三項において準用する第三十二条の二第五項〔管理又は管理のため必要な措置を拒み、妨げ又は忌避することの禁止〕の規定を含む)及び第四十一条〔国宝の損失補償及び増額請求の訴え〕の規定を準用する。

第五十九条

前条第一項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、文化庁長官は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治三十二年法律第八十七号)第十三条〔埋蔵物〕で準用する同法第一條第一項〔遺失物拾得者の処置〕の規定にかかわらず、警察官長の処置の規定による公告をしなければならない。

(提出)

第六十条

遺失物第十二条〔埋蔵物〕で準用する同法第一條第一項〔遺失物拾得者の処置〕の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を文化庁長官に提出しなければならない。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第六十一条

前条の規定により物件が提出されたときは、文化庁長官は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならない。

- 2 文化庁長官は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めたときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと認めたときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)

第六十二条

第五十九条第一項〔発掘による文化財の発見の場合の文化庁長官の処置〕又は前条第一項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があったときは、文化庁長官は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫補助及び報償金)

第六十三条

第五十九条一項〔発掘による文化財の発見の場合の文化庁長官の処置〕又は第六十一条第二項〔埋蔵物として提出された文化財の処置〕に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合においては、文化庁長官は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

- 2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。
- 3 前二項の場合には、第四十一条第二項から第四項まで〔損失補償額の決定、補償額の増額請求の訴え、訴えにおける国の被告〕の規定を準用する。

(譲り等)

第六十四条

政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用からみて国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲りすることができる。

- 2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。
- 3 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に対し、その申請に基き、当該文化財を譲りし、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)

第六十五条

埋蔵文化財については、この法律に特別の定のある場合の外、遺失物法第十三条〔埋蔵物〕の規定の適用があるものとする。

第六十六条から第六十八条まで

削除〔昭和二九年五月法律131号〕

飯山市埋蔵文化財調査報告 第14集

飯山の遺跡

昭和61年3月10日

編集 飯山市教育委員会
発行 飯山市大字飯山1.110—1

印刷 御足立印刷所
飯山市大字常郷581—1

